

宇治市における小中一貫教育の方向性

(小中一貫教育基本構想検討委員会審議のまとめ)

～ 学校が変わり、地域が変わり、
そして、子どもたちが光り輝く小中一貫教育 ～

平成18年3月

小中一貫教育基本構想検討委員会

目 次

はじめに	1
1 学校教育の現状と課題	2
2 小中一貫教育の意義	4
3 小中一貫教育の目標	6
4 小中一貫教育の内容	7
(1) 義務教育9年間の一貫性のあるカリキュラム	
(2) 発達段階を踏まえたカリキュラム	
(3) 各教科等の授業時数の配当	
(4) 「いしずえ学習の時間」の実施	
(5) 小学校高学年からの選択教科の実施	
(6) 「宇治学」の実施	
(7) 小学校段階からの「英語活動」など英語教育の実施	
(8) 小学校高学年からの教科担任制の実施	
5 小中一貫教育を支えるもの	10
(1) 学校運営	
(2) 家庭・地域社会との連携	
むすびに	13

【資料】

小中一貫教育基本構想検討委員会委員名簿	15
小中一貫教育基本構想検討委員会審議経過	

【参考資料】

小中一貫教育全体構想	(1)
発達段階を踏まえた一貫性のある教育課程	(2)
小中一貫教育における年間授業時数試案	(3)
国語科の小中一貫教育カリキュラムについて	(4)
算数・数学科の小中一貫教育カリキュラムについて	(12)
英語教育の小中一貫教育カリキュラムについて	(18)
「宇治学」の小中一貫教育カリキュラムについて	(30)

はじめに

少子高齢化、国際化、情報化など急速に変化する社会の中で、社会経済構造の改革など新たなシステムを構築する動きが高まっている。

教育分野においても例外ではなく、人々の意識や価値観の多様化に伴い、学校教育には、従来にも増して大きな期待が寄せられている。豊かな個性や社会性を培うための基礎的、基本的な事項を習得し、真の学力を身に付けた、健やかで、たくましい心身ともに健康な子どもたちをはぐくむために、明治の学制施行以来続いてきた諸制度に対して、次々と改革が進められている。

こうした中で、宇治市においては、平成17年3月に宇治市学校規模適正化検討懇話会から新しい教育課題に対処し、教育効果をも確保できる学校の在り方及びその具体化に向けた方策について答申が出された。

その中で、宇治市の小・中学校における諸課題を解決するとともに、保護者や地域の多様なニーズに積極的に応えていくため、

小学校高学年から中学校進学時に生じる子どもたちの心理的不安を軽減し、義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、系統的・継続的な教育活動を展開できる学校

異年齢集団による多様な活動などを通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむことができる学校

コミュニティのセンターとしての役割を担う学校

を基本としながら、小中一貫教育をスタンスとする学校規模の適正化と適正配置を考えていく必要があることが提言され、小中一貫教育を中核とした新しい教育システムの構築が課題として示された。

本委員会は、小中一貫教育の実施に向けた諸課題の調査及びその解決方策について研究を行うため平成17年5月に設置され、6回の会議を開き、学校・家庭・地域社会の現状を踏まえながら審議を重ね、ここに審議のまとめとして、「宇治市における小中一貫教育の方向性」を提言する。

今後、このまとめについて、教育関係者、市民、保護者の皆様をはじめとして、幅広くご意見をいただきながら、新しい教育システムの実現に向けて、さらに検討を進めていただくことを期待している。

1 学校教育の現状と課題

(1) 宇治市立小・中学校の児童生徒の意識調査（平成15年7月実施）より

- ア 小・中学生のおよそ8割が「学校は楽しい」と答え、9割以上が「友達とい
る時は楽しい」と答えている。
- イ 小・中学生の8割以上が「勉強は大切だ」と答えている反面、「勉強が好き
だ」と答える割合は、小学校3年生で69%、5年生で55%、中学校2年生で1
7%と大きく減少している。
- ウ 「学校の授業がよくわかる」、「だいたいわかる」と答える割合は、小学校3
年生で69%、5年生で71%、中学校2年生で54%という傾向が見られた。
- エ 中学生の8割以上が部活動に参加しており、放課後はもとより半数以上の生
徒が土曜日や日曜日にも熱心に活動している。

以上のように、小・中学生ともに学校生活を肯定的にとらえ、積極的に活動し
ている様子がうかがえるものの、基礎学力や学ぶ意欲などには課題も残されてい
る。

(2) 宇治市教育委員会の教育施策より

- ア 学校教育の中で家庭及び地域社会の人材を積極的に活用したり、学校や地域
の課題に応じた総合的な学習の時間を推進したりするなど、地域に開かれた特
色ある学校づくりが進められている。
- イ 本年度から、「宇治市教育の日」及び「宇治市教育月間」を制定し、学校・
家庭・地域社会の三者が連携を一層強め、保護者や地域住民の教育活動への参
画意識を高め、教育の充実と発展の契機とするための取組が始められている。
- ウ 学習指導では、課題別指導や習熟の程度に応じた指導などの少人数指導を積
極的に進め、朝学習、補充的な学習、家庭学習などの学びの機会の充実を図り、
個に応じたきめ細かな指導を推進し、基礎的・基本的な内容の確実な定着に向
けて取り組まれている。
- エ 小中連携による学力の充実・向上と希望進路の実現につながる指導の充実を
図るため、全ての小・中学校において連携組織が設置され取組が進められてい
る。

オ 各学校における読書活動の活性化を図るため、学校図書館ボランティアの育成や司書職員の配置が行われ、学校図書館の利用が大幅に伸び、子どもはもとより保護者や地域の方々からも高い評価を受けている。

カ 生活実態の多様化に伴い、特別な教育的支援を必要とする子どもが増加していることから、学級支援員を配置し、学級全体として効果的に運営できるよう支援が行われている。

キ 英語教育の振興と国際理解教育の推進を図るため、「英語指導助手」を配置し、小学校での英語活動や中学校での外国語(英語)の授業に派遣されている。

ク 総合的な不登校対策として、適応指導教室の設置や「メンタルフレンド」の派遣など積極的な取組が進められている。

ケ 地域における子どもたちの安全対策の展開をめざし、教職員と子ども・保護者との信頼関係づくり、学校と家庭・地域社会が協働できる体制づくりが進められている。

以上のように、学校と家庭・地域社会とが広い接点を持ちながら、子どもたちの教育にあたることができるよう様々な施策が進められている。

(3) 課 題

今日の子どもたちの状況を見ると、学習意欲の低下、家庭での学習習慣の未定着、学校外での社会体験の不足など、豊かな人間性をはぐくむべき時期の教育に様々な課題が生じている。また、小学校と中学校の間には大きな段差が生じており、小学校から中学校への進学時に子どもたちは戸惑いを感じ、不登校や問題行動の要因のひとつになっているとも考えられる。さらに、工業化社会から知識基盤社会へ大きく変化する21世紀においては、単に学校で知識・技能を習得するだけではなく、知識・技能を活かして社会で生きて働く力、生涯にわたって学び続ける力を育成することが重要であると言える。

これらを踏まえると、学校・家庭・地域社会の三者が連携を一層強め、適切に役割を分担するとともに、保護者や地域住民の教育活動や学校運営への参画等を通じて、学校は社会との広い接点を持ちながら、子どもたちの教育にあたることが求められている。

2 小中一貫教育の意義

今日の子どもたちを取り巻く問題の解決を図ることは、教育行政や学校現場に課せられた喫緊の課題であると考えます。課題解決にあたっては、様々な方法を考えることができるが、本委員会としては、小中一貫教育を重要な手法としたい。

すなわち、子どもたちに確かな学力と豊かな心、健やかな体をはぐくむためには、小学校と中学校という単位でとらえるのではなく、義務教育9年間を通して子どもたちの発達段階に応じたきめ細かな学習指導、生徒指導に取り組むことが必要である。

小中一貫教育の意義としては、次のことがあげられる。

- (1) 9年間一貫した系統的、継続的な学習指導や生徒指導を展開することができる。
- (2) 9年間の長期展望の中で、子どもの発達や興味・関心に応じた指導を展開することができる。
- (3) 多様な教育活動や地域とともに進める教育活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむことができる。
- (4) 今日的な課題に対応できるよう指導内容を充実し、自らの生き方を拓く資質をはぐくむことができる。
- (5) 小・中学校の教職員の連携を深め、学校間の指導の段差を解消し、子どもたちの負担を軽減することができる。
- (6) 9年間の幅広い年齢の子どもたちが交流する場を設定することができる。
- (7) 地域連携が深まり、学校・家庭・地域社会が一体となって教育活動を展開することができる。

今後、宇治市において小中一貫教育を進めるにあたり、本委員会では、宇治市学校規模適正化検討懇話会答申で示された、「強固な小中ユニット(小中一貫教育校)」と「小中一貫校」の2つの形態を基本とする必要があると考えます。

【参考】宇治市学校規模適正化検討懇話会答申で示されている小中一貫教育の2つの形態

ア 「強固な小中ユニット(小中一貫教育校)」を基盤とした小中一貫教育

宇治市における「小中ユニット」という考え方は、
 小学校と中学校がそれぞれ独立した敷地や校舎になっていること。
 学校運営組織がそれぞれ独立していること。
 教育課程がそれぞれ独立していること。
 を基本とし小学校と中学校が連携しながら義務教育9年間を見据えた教育活動を展開していく形態を指している。

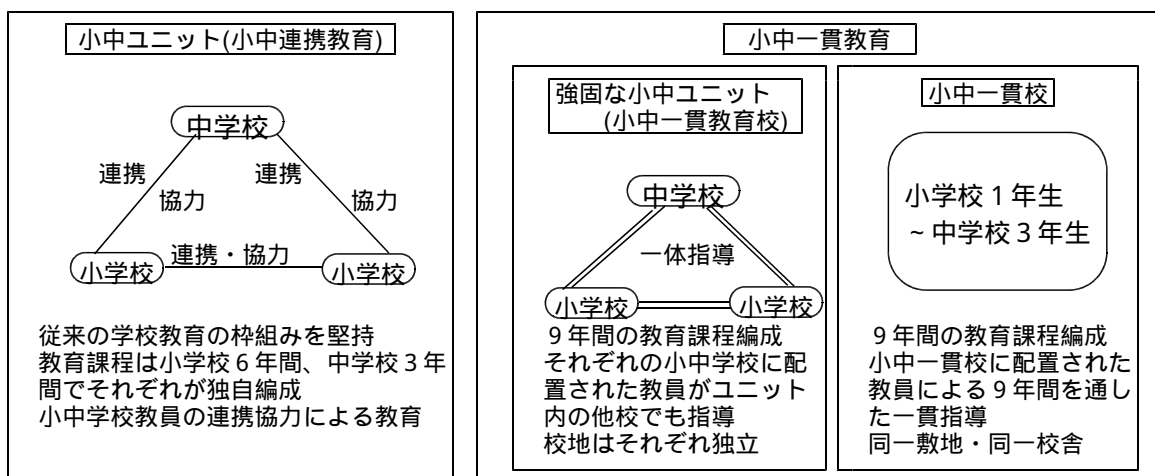
本懇話会は宇治市が考える「小中ユニット」という考え方に加え、
 子どもたちの多様な能力を伸ばすことができる系統的・継続的な教育システムという視点から従来の小学校教育課程と中学校教育課程を一本化した義務教育9年間の教育課程を編成すること。
 小学校と中学校の教員が学習指導や生徒指導において日常的に交流を図り、それぞれの校種での利点を取り入れながら、より強固な連携を図ること。
 現行の小学校高学年に教科担任制を導入し、中学校の教員が担当すること。
 など弾力的な運用を図ることを含めた、「強固な小中ユニット(小中一貫教育校)」を構築していくことが重要であると考えます。

イ 「小中一貫校」を基盤とした小中一貫教育

もう一つの方向性として考えられるのは、「強固な小中ユニット(小中一貫教育校)」を基盤とした小中一貫教育をさらに発展させた統合型の「小中一貫校」の設置である。
 本懇話会が考える「小中一貫校」とは、
 小学校と中学校を一体化させ、同一敷地内、同一校舎で学校教育活動を行うこと。
 学校運営組織においても一体化させた学校運営を行うこと。
 小・中学校を6年・3年制としてとらえるのではなく、義務教育9年間を例えば、4年・3年・2年制に編成し、一貫した教育課程で教育活動を行うこと。
 を基本としながら、新しい教育システムの中で教育活動を展開する学校である。

<参考>

宇治市における「小中一貫教育」の考え方について



宇治市学校規模適正化検討懇話会答申より抜粋

3 小中一貫教育の目標

～ 学校が変わり、地域が変わり、
そして、子どもたちが光り輝く小中一貫教育 ～

小中一貫教育では、小学校と中学校との接続による9年間の一貫教育に加えて、学校が地域コミュニティの中核としての役割を担うことも必要であると考えます。これは、地域住民の学校運営への参画や学校から地域への積極的な働きかけを通して、地域の教育ネットワークを構築し、その中心に学校を位置付けようとするものである。そのため、小中一貫教育では、次のような学校となることを期待している。

めざす学校像

子ども一人一人に確かな学力と豊かな心をはぐくむことができる学校
子どもたちが当面している様々な課題に対し、地域社会と一体となり、
解決に向けて積極的に取り組むことができる学校

宇治市における小中一貫教育は、決して「エリート教育」を進めようとするものではない。小学校6年間と中学校3年間でひとまとまりの9年間としてとらえ、ゆとりある学校生活を実現し、その中で次のような子どもを育てようとするものである。

めざす子ども像

『将来の夢を持ち、自己実現に向けた努力ができる子ども』

学力の充実・向上に励む子ども

豊かな人間性や社会性を身に付けた子ども

社会の変化に主体的に対応できる子ども

健康な体や体力を持つ子ども

4 小中一貫教育の内容

(1) 義務教育 9 年間の一貫性のあるカリキュラム

子どもたちに生きる力を身に付けさせるため、確かな学力の向上と心の教育の充実を重点的に取り組む。そのために、小・中学校のそれぞれにおいて完結したものとなっている教育課程について、指導内容に重複や隙間が見られる部分を見直し、系統性を高めた義務教育 9 年間の一貫したカリキュラムを作成し、学習内容、指導方法、教材・教具、評価方法などを計画的、継続的に実施できるようにする。

(2) 発達段階を踏まえたカリキュラム

義務教育 9 年間の教育課程を編成するにあたり、子どもたちの実態、身体面、思考面の発達、そして教育心理学の研究成果などから、9 年間を前期（4 年間）、中期（3 年間）、後期（2 年間）のまとまりとしてとらえ、発達段階を踏まえたカリキュラムを編成する。

前期においては、「いしずえ学習」の実施など、個に応じた指導を充実し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けられるようにする。中期からは、教科ごとに指導する教員が替わる「教科担任制」を部分的に導入したり、個々の子どもがいくつかの講座の中から、興味・関心や課題に応じて学習内容を選択できる「選択教科」を導入するなど、子どもたちの学習意欲を高めながら学力の向上に努める。後期は、義務教育 9 年間の総まとめの期間として、希望する進路実現に向けて学力を十分に伸ばし、個性を発揮できるよう、柔軟で特色のある教育内容を設定することにより、これまで以上に効果的な指導ができるようにする。

(3) 各教科等の授業時数の配当

基礎的・基本的な内容の確実な定着と個に応じた指導の充実を図るため、子どもたちの負担にならない範囲内で国が定める基準を上回る授業時数を各学年ごとに設定したり、予備時数の有効な活用を図ったりしながら、繰り返し指導や習熟の程度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習などを取り入れたり、今日的な教育課題に対応できるよう教育内容を充実したりする。

(4) 「いしずえ学習の時間」の実施

小学校第1学年から第4学年までの前期の子どもたちを対象に、「いしずえ学習」の時間を新設する。「いしずえ学習」とは、子どもたちそれぞれの学習状況等に応じて、基礎・基本の学力を徹底して身に付けさせ、学ぶ力を伸ばしていく学習である。例えば、一人一人の子どもに国語「漢字」や算数「計算」など、自分の課題克服に効果的な学習を選択させ、基礎的・基本的な内容の確実な定着をめざすものである。学校においては、各教科での学習状況を分析しながら、効果的な指導が行えるよう、指導内容や指導形態を適切に定め、実施していく必要がある。

(5) 小学校高学年からの選択教科の実施

現在、選択教科は中学校から行っているが、小学校高学年において、すでに子どもたちの興味・関心が多様化しており、小学校においても、個性を尊重し、個性を伸ばす場が大いに求められるものと考え。個性伸長・自分発見のための選択教科を導入し、子どもたちが自らの興味や関心によって学ぶ対象を選択し、主体的、個性的に学んでいく機会とする。授業の実施にあたっては、例えば、小学生が中学校へ移動して、中学校の教室で中学校の教員から指導を受けるようなことができれば、小学生が中学校の施設や教職員に慣れ、中学校に対する不安感や抵抗感を和らげることができると期待している。

(6) 「宇治学」の実施

「総合的な学習の時間」の一部を「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」というコンセプトをもとに、義務教育9年間を通して学習する「宇治学」の時間に再編成する。

宇治市で育ち、宇治市で学ぶ子どもたちが、地域素材、地域活動を積極的に活用した学習に、地域の方々の協力も得ながら取り組むことを通して、宇治市民としての自覚と責任感を身に付け、将来の宇治市の担い手としての在り方と生き方について考え、学ぶこととする。

具体的な内容については、学校、地域や子どもたちの実態を考慮しつつ、これまで各校で取り組んできた「総合的な学習の時間」の成果も生かせるよう、各学校において適切に定めるものとするが、その中で、学び方やものの考え方、個性を生かし高める能力とともに、地域に親しみを持ち、よりよい地域を考えられるような市民としての社会性を身に付けられるようにする。

(7) 小学校段階からの「英語活動」など英語教育の実施

国際化が進む社会において国際的な共通語である英語の習得が求められている。児童期は、新たな事象に関する興味・関心が強く、言語をはじめとして、異文化に関しても自然に受け入れられる時期にある。このような時期に英語に触れることは、コミュニケーション能力を育てる上でも、国際理解を深める上でもたいへん重要な体験になる。このような観点から、現在、小学校の「総合的な学習の時間」において国際理解教育の一環として、英語に慣れ親しむことを中心とした英語活動に取り組まれている。しかし、各小学校での英語活動への取組状況は、指導時数、指導内容ともに学校の計画のもとに行われているため、実施状況に差が生じている。

小中一貫教育では、宇治市共通カリキュラムを作成し、小学校段階から英語に親しませ、中学校の外国語（英語）へのスムーズな連携により、義務教育9年間の英語活動・英語教育を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養い、国際的な感覚を育てることを目標とする。

(8) 小学校高学年からの教科担任制の実施

小学校高学年から教科担任制を部分的に取り入れ、教員の専門性を活かした授業を行う。教科担任制の導入により、教材の研究や授業の準備を教員が分担して、一層効果的に行うことができるようになり、子どもたち一人一人のニーズやつまづきに十分対応した授業ができる。また、子どもたちはさまざまな教員と関わるので、生徒指導の視点も含め、多面的な支援を受けることができ、いろいろな教員とのふれあいの中から学びとることも期待できる。さらに、小学校高学年で教科担任制を経験することにより、中学校の教科担任制への滑らかな移行を図ることにもつながる。

5 小中一貫教育を支えるもの

(1) 学校運営

『学校マネジメントシステム(PDCA)が機能している学校』

信頼され期待に応える学校

説明責任を果たせる学校

組織体としての教育活動ができる学校

『保護者や地域住民が学校運営に積極的に参画できる学校』

保護者や地域住民との連携・信頼関係のある学校

学校運営協議会の設置を視野に入れた学校運営

『義務教育9年間の子どもたちの成長や学びに責任を持つ教職員』

豊かな人間性、広い社会性及び高い専門性を持つ教職員

使命感を持って自らの資質能力の向上に努める教職員

学校目標の達成のために連携協力できる教職員

学校が子どもたちや保護者、地域の人々の信頼に応え、家庭や地域社会と連携・協力して教育活動を展開していくためには、情報を積極的に発信し、説明責任を果たすことが重要である。また、教育の質を着実に向上させていくためには、学校運営・学校教育活動全般にわたって、『計画(P) - 実践(D) - 評価(C) - 改善(A)』というマネジメントサイクルを機能させることが必要である。

宇治市立の小・中学校では、平成17年度から学校評価システムを構築し、教育上の課題に対して、全ての教職員が共通認識のもとに組織的・計画的に取り組まれているところであるが、今後の一層の充実を期待するものである。

また、学校評価の客観性や信頼性を確保するためには、学校が自己評価を行うだけでなく、積極的に外部評価を行うことも必要である。その結果を自己評価の資料として活用することによって、評価の客観性や信頼性を高めることができる。また、このようにして得られた評価結果を公表し、学校の課題を共有することにより、家庭や地域社会との連携・協力を得た学校づくりが可能となり、学校の教育力の向上につながるものとする。

宇治市では、平成14年度から3年間2つの中学校区において、「小中ユニット」を柱とした「基礎学力向上研究開発事業」が展開された。この事業においては、小学校と中学校が協働しながら、学力向上や生徒指導上の諸課題の解決に向けて取り組み、学力の向上など一定の成果も見られたが、さらに小・中学校間の強固な接続を進めることが課題とされた。

このことから、「強固な小中ユニット（小中一貫教育校）」と「小中一貫校」の2つの形態を基本とした小中一貫教育を進めるためには、いずれの形態の学校においても、子どもたちの9年間の成長の姿を教職員が目の当たりにできる学校体制の構築が必要となる。

そのためには、「小中一貫校」はもちろんのこと、特に「強固な小中ユニット（小中一貫教育校）」においては、中学校区の小・中学校が「1つの学校」として機能できるよう、教育目標・組織体制・指導体制の一本化、教職員の人事交流、連携の核となる教職員の配置などのシステムづくりが課題になると思われる。

小中一貫教育により、小・中学校の教職員がそれぞれの学校の垣根を越えて、直接教育活動に参加できるようにする。小学校入学時から中学校卒業時までの9年間の子どもたちの学力の伸長や成長の実態をもとに、日常的に授業や生徒指導の在り方を研究したり、9年間のカリキュラムや教育方法を改善していくことが重要である。そして、教職員が自らの実践力を向上できるシステムとして小中一貫教育を機能させていくことが、子どもたちに確かな学力と豊かな心をはぐくむことに結びつくものと確信する。

(2) 家庭・地域社会との連携

『子どもたちの育ちや学びを支援できる地域』

学校、保護者、地域住民が協働して、教育力を発揮できる地域

『中学校区を基本に小・中学校と一体となって機能する地域』

学校と保護者、また保護者同士が9年間継続的に連携・交流できる地域

生きる力をはぐくむためには、学校、家庭、地域社会が相互に連携しつつ、社会全体で子どもを育てていくことができるシステムづくりが重要である。このため、異年齢の子どもや世代を超えた地域の人々との関わりの中で、様々な体験の機会を提供し、子どもの自主性・創造性・社会性を涵養するとともに、触れる・体験するといった感覚を通して情操を養うなど、学校と地域の大人の力を結集して子どもを育てる環境を整備することが求められる。

宇治市のめざす小中一貫教育においては、小中一貫校のみならず、小中一貫教育校においても、それぞれの小・中学校ごとの地域連携ではなく、中学校区を基本に小・中学校が「1つの学校・1つの地域」として、学校と地域社会の関係を考える必要がある。そして、地域住民の学校運営への参画や学校から地域への積極的な働きかけを通して、地域の教育ネットワークを構築し、その中心に学校を位置付け、学校が地域コミュニティの中核としての役割も担うことが必要である。

そのためには、中学校区ごとに各学校のPTA・育友会が組織を融合したり、地域諸団体も互いに連携を強めたりしながら、学校・家庭・地域社会が中学校区を単位に一体となって、子どもの教育に携わることができるような地域づくりを進めていかなければならない。

むすびに

本委員会では平成17年3月に出された「宇治市学校規模適正化検討懇話会」の答申を受け、宇治市における小中一貫教育の導入に関して、小・中学校の保護者、教職員の代表、地域の自治団体関係者、教育委員会関係者、学識経験者を委員とし、平成17年5月から6回の委員会を開催し、検討を行ってきたが、この度、その審議の結果をまとめて公表する運びとなった。

「宇治市学校規模適正化検討懇話会」答申では、学校規模の適正化という課題の解決にあたって、小中一貫教育をスタンスとした小・中学校の規模の適正化と適正配置が今後の宇治市の教育を展望していく上で重要であると指摘された。本委員会での検討課題のもっとも重要なテーマは小中一貫教育の導入の可能性並びにその実施形態に関する事項であった。同答申においても小中一貫教育の必要性、教育効果についても言及されているが、本委員会ではそれまでの議論を概観した上で、本市で既に実践研究が進められている「小中ユニット」の成果や課題、他の自治体での実践の状況や小中一貫教育に関する研究成果等をもとに検討を行った。

小中一貫教育の必要性に関する議論を通して明らかになったことは、小・中学校の校種間の段差やそれに伴う様々な子どもたちの課題を解決するための方策としてだけでなく、この小中一貫教育が子どもたちが夢を描き希望をもって通える学校づくりをめざすものであり、本市の新しい教育を生み出す基盤となるものであるという認識であった。

従来の小学校、中学校という枠組み、教育内容や教育方法、学校文化を小中一貫教育の視点から見直すことで、より子どもの実態や思いに即した、また、保護者や地域の願いに叶った学校教育が展開されるという点で委員の意見の一致を見ることができたと考えている。

また、同答申で示された「強固な小中ユニット（小中一貫教育校）」と「小中一貫校」という2つの形態についても、公教育としての公平性の確保や水準の維持という視点から丁寧な議論を行い、本委員会においては、今後、地域の実態に即しながら柔軟かつ多様な方法での導入を検討するという事となった。

「強固な小中ユニット（小中一貫教育校）」であれ「小中一貫校」であれ、この教育システムのもっとも重要な点は、小学校と中学校を単に接続させるという学校制度、教育の枠組の改編にあるのではなく、一般にカリキュラム（教育課程）と呼ばれる教育内容や方法を新たなものに創り変えていくこと、また、小・中学校のこれまでのよさを生かしながら新しい学校運営の組織や方法を編み出していくことにあり、小中一貫教育の成否はここにかかっているといえる。

本審議のまとめや参考資料においては、「宇治学」、「小学校段階での英語教育」などの魅力的な学習内容や「いしずえ学習」、小学校高学年からの「選択教科」、「教科担任制」の実施など、確かな学力の定着や個性の伸長に視点を当てた内容が盛り込まれている。また、学校運営や家庭・地域との連携に関してもこれまでの取組を踏まえ、今後の重点を提案している。本委員会では、これらの具体的な内容について、大枠での検討は行ったが、その細部についての検討は見送らざるを得なかった。しかしながら、これらは、小中一貫教育の豊かさを創りだす楽しみな部分であり、今後十分に検討されることを大いに期待したい。

そのためには、1つには地域住民の方々にコミュニティの中核としての学校の役割を再認識していただき、新しい学校づくりに積極的に参画いただくこと、2つには学校の先生方が教育のプロフェッショナルとして、子どもたち、保護者、地域の人々の声に耳を傾けながら、新しい教育の創造的実践にその能力を発揮いただくこと、そして、3つめには教育委員会を中心とする行政が教育諸条件・環境の整備に力を注いでいただくことが何よりも必要である。これら三者の協働により、学校がかわり、地域がかわり、そして子どもたちが光り輝く宇治市の教育が実現すること、そして、本市が日本の教育の先進地となることを願っている。

最後になりましたが、本委員会で積極的に検討・協議をいただいた委員の方々、教育委員会事務局のスタッフの方々に深く感謝の意を表したい。

小中一貫教育基本構想検討委員会

委員 長 高 乗 秀 明

【資料】

小中一貫教育基本構想検討委員会委員名簿（順不同）

委員長	高 乘 秀 明	京 都 教 育 大 学 助 教 授
副委員長	井 関 守	菟 道 小 学 校 校 長
	荒 木 嘉 夫	元 宇 治 市 学 校 規 模 適 正 化 検 討 懇 話 会 委 員
	辻 伊 三 雄	元 宇 治 市 学 校 規 模 適 正 化 検 討 懇 話 会 委 員
	向 山 ひ ろ 子	木 幡 中 学 校 育 友 会 会 長
	薮 正 永	宇 治 小 学 校 育 友 会 会 長
	塩 野 裕 司	宇 治 中 学 校 教 頭
	小 田 康 博	神 明 小 学 校 教 諭
	岩 崎 正 樹	東 宇 治 中 学 校 教 諭
	塚 原 理 俊	宇 治 市 教 育 委 員 会 教 育 部 長

小中一貫教育基本構想検討委員会審議経過

第 1 回	平成 1 7 年 5 月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委嘱状の交付 ・ 委員長及び副委員長の選出 ・ 委員会設置要項について ・ 宇治市学校規模適正化検討懇話会答申の概要
第 2 回	平成 1 7 年 6 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治市の学校教育の現状と課題
第 3 回	平成 1 7 年 7 月 2 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育のめざすもの
第 4 回	平成 1 7 年 8 月 2 5 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間のまとめ
第 5 回	平成 1 8 年 2 月 1 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫教育の内容
第 6 回	平成 1 8 年 2 月 2 8 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治市における小中一貫教育の方向性 ・ 審議のまとめ

參考資料

小中一貫教育全体構想

子どもたちに見られる課題

- (1) 多くの子どもたちは学校生活が楽しいと考え、積極的に学校生活を送っているものの、学習意欲や学び続ける習慣などに課題が見られる。
- (2) 義務教育終了時点で学力の定着が十分でなく、自分にふさわしい進路選択やそのための努力ができず、進学後も結果的に挫折してしまうことがある。
- (3) 人間関係が希薄で、実社会での体験も少なく社会に順応しにくいまま、反社会的・非社会的行動に陥ることがある。
- (4) 自分の住む地域について親しみが弱く、身近で生活する人との関係も希薄なことから社会的なルールやマナーを守れない様子が見られる。

小・中学校の連携に関する課題

- (1) 小・中学校の教育課程がそれぞれの中で完結したものとなっており、小・中学校の指導内容に重複や隙間が見られ、教育課程の一貫性、教育内容の系統性、指導方法の継続性に課題がある。
- (2) 教職員の指導観や子ども理解、学習習慣やきまりなどに、小・中学校で異なる部分があり、一貫した継続的な指導ができていない。
- (3) 義務教育9年間の長期展望の中で子どもの発達をとらえることができておらず、子どもの発達段階や興味・関心に応じた指導が十分にできていない。
- (4) 中学校への進学の際に、不安やストレスを感じていることがあり、中学校での問題行動や不登校の発生件数の急増につながっているものと思われる。
- (5) これらの課題を解決するために小中連携教育の取組を推進しているが、現行制度の枠の中では、教育課程の編成や教職員体制などにおいて限界がある。

学校が変わり、地域が変わり、子どもが光り輝く小中一貫教育

9年間のゆとりある学校生活の中で、子どもたち一人一人の個性や能力の伸長を図るとともに、豊かな人間性や社会性をはぐくむため、義務教育9年間の学びを一体のものとしてとらえ、発達段階に応じたきめ細かな指導を展開する。

- (1) 発達段階に即した系統的、継続的な学習指導や生徒指導を9年間一貫して展開する。
- (2) 多様な教育活動や地域とともに進める教育活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむ。
- (3) 今日的な課題に対応できるように指導内容を充実し、自らの生き方を拓く資質をはぐくむ。
- (4) 小・中学校の教職員の連携を深め、学校間の指導の段差を解消し、子どもたちの負担を軽減する。
- (5) 地域連携を推進し、学校・家庭・地域社会が一体となって教育活動を展開する。

学力の充実・向上

基礎・基本を徹底し、自ら学び、自ら考える力を育成する

学習習慣の定着と学習意欲の向上
基礎・基本の徹底と学力の充実・向上
自ら学び、自ら考える力の育成

【具体的な手立ての例】

小中一貫教育カリキュラムによる系統的・継続的な指導
子どもの発達段階に応じた4・3・2の区切りの設定
子どもの発達や興味・関心に応じた効果的な指導や学習集団を工夫した指導の展開
基礎・基本を徹底する「いしずえ学習」の新設
9年間の長期展望の中での補充学習・発展的な学習の実施
小・中学校の教職員の連携による指導の工夫・改善

豊かな人間性と社会性の育成

多様な教育活動

自分を見つめ、周りの人と共生できる豊かな人間性と社会性を育成する

社会の変化に対応できる能力の育成
個性や能力の伸長と自己存在感の育成
コミュニケーション能力の育成
共感の人間関係をはぐくむ心の育成

【具体的な手立ての例】

英語活動・英語教育の充実
小学校高学年からの選択教科の設定
9年間の長期展望の中で、子どもの発達段階に応じたきめ細かな生徒指導の展開
幅広い異年齢集団による教育活動の展開

地域とともに進める教育活動

社会の一員としての意識を育て、ふるさと宇治を大切にすることを育成する

社会の一員としての自覚と責任感の育成
ふるさと宇治への郷土愛の育成
自己実現に向けた態度の育成

【具体的な手立ての例】

地域の特色を生かした「宇治学」の新設
地域行事との積極的な連携
地域での職場体験活動の充実
地域でのボランティア活動の充実



『将来の夢を持ち、自己実現に向けた努力ができる子ども』

学力の充実・向上に励む子ども
豊かな人間性や社会性を身に付けた子ども
社会の変化に主体的に対応できる子ども
健康な体や体力を持つ子ども



学校経営（運営）

『学校マネジメントシステム(PDCA)が機能している学校』

説明責任を果たし、信頼され期待に応える学校

『保護者や地域住民が積極的に学校運営に参画できる学校』

連携や信頼関係に基づき、保護者や地域住民が学校運営に参画できる学校

『義務教育9年間の子どもたちの成長や学びに責任を持つ教職員』

使命感を持って自らの資質能力の向上に努める教職員

【具体的な手立ての例】

学校評価と情報公開
保護者・地域住民の学校評価への参画
9年間の子どもの成長や学びを教職員が目当りにできる仕組み作り
連携校間の教育目標の一本化（連携校合同学習・合同活動）
卒業後の進路を見通した共通の視点からの教育活動の推進

家庭・地域連携

『子どもたちの育ちや学びを支援できる地域』

学校、保護者、地域住民が協働して、教育力を発揮できる地域

『中学校区を基本に小・中学校と一体となって機能する地域』

学校と保護者、また保護者同士が9年間継続的に連携・交流できる地域

【具体的な手立ての例】

中学校区を基本に地域コミュニティの拡大・充実
小・中学校のPTA・育友会の連携強化
中学校区単位での地域諸団体の連携強化
小・中学校と一体化した活動の推進（学校行事と地域行事の融合）
地域の教育力の学校教育への参画
保護者・地域住民・学生などによる学習支援、クラブ・部活動支援、学校安全支援

発達段階を踏まえた一貫性のある教育課程

	【 前 期 】	【 中 期 】	【 後 期 】
	第1学年～第4学年	第5学年～第7学年	第8学年・第9学年
ね	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に即した系統的、継続的な学習指導や生徒指導を9年間一貫して展開する。 ・多様な教育活動や地域とともに進める教育活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむ。 ・今日的な課題に対応できるよう指導内容を充実し、自らの生き方を拓く資質をはぐくむ。 ・小・中学校の教職員の連携を深め、学校間の指導の段差を解消し、子どもたちの負担を軽減する。 ・地域連携を推進し、学校・家庭・地域社会が一体となって教育活動を展開する。 		
ら	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活への適応 ・基本的な生活習慣の定着 ・社会性の基礎や規範意識の定着 ・自己と集団との関わりの理解 ・学習習慣の定着 ・基礎学力の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期から後期への円滑な接続 ・自己理解と他者理解 ・社会的な行動力の向上 ・意欲的な学習態度の育成 ・学力の充実と向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な目標(進路)設定 ・社会活動への積極的な参加 ・自己実現に向けた態度の育成 ・探究的な学習態度の育成 ・個性や能力の伸長 ・希望進路の実現
い			
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任を基本とし、子どもと教職員とのつながりを大切にしながら、少人数指導や合同授業など指導方法の工夫改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制を積極的に取り入れ、より専門性の高い教科指導を展開する。 ・学力充実、個性伸長・自分発見のための選択教科を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特性に応じた学習ができるよう、選択教科の充実を図り、課題学習、補充的な学習、発展的な学習に取り組めるようにする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを実感させながら、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ・集団生活の中で、係活動やきまりについて認識を深め、実行できるようにする。 ・実際の体験を通して学習できるように体験活動を重視する。 ・地域のよさを知り、地域に親しむ機会を設ける。 ・自己及び他者のことに関心を持ち、積極的に理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の必要性を感じ、意欲を持って学習できるようにする。 ・心身の著しい成長に対応した生徒指導の充実を図る。 ・体験や具体物を通じた学習のみでなく、抽象的な思考もできるような学習活動を取り入れられる。 ・自ら課題を見付け、解決するための学習方法を身に付ける。 ・地域を見つめ直し、地域の特色や課題を考える機会を設ける。 ・自己及び他者理解への積極的な意欲を形成する。 ・自己の長所や欠点に気付き、人との関わりの中で自分らしさを発揮できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性や能力を知り、積極的な進路選択ができるようにする。 ・自分の目標に向かって、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・自分の個性を自覚し、自分にふさわしい課題を選んで学習できる機会を設ける。 ・職場体験やボランティア活動など実社会での学習を積極的に取り入れる。 ・自分で選んだことに自覚と責任を持って最後までやり抜く態度を身に付ける。 ・よりよい地域の姿を考えられる機会を設ける。

小中一貫教育における年間授業時数試算

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	英語	道徳	特別	選択	総合	宇治学	いしづえ学習	総時数
第1学年 (小1)	272	/	114	/	102	68	68	/	90	+10	34	34		/	/	+34	+44
週あたり	8.0	/	3.4	/	3.0	2.0	2.0	/	2.6	0.3	1.0	1.0		/	/	1.0	24.3
第2学年 (小2)	280	/	155	/	105	70	70	/	90	+10	35	35		/	/	+35	+45
週あたり	8.0	/	4.4	/	3.0	2.0	2.0	/	2.6	0.3	1.0	1.0		/	/	1.0	25.2
第3学年 (小3)	+10		+25	/	/	60	60	/	90	+20	35	35		-105	+35	+15	+0
週あたり	7.0	2.0	5.0	/	/	1.7	1.7	/	2.6	0.6	1.0	1.0		1.0	0.4	26.0	
第4学年 (小4)	+10		+25	/	/	60	60	/	90	+20	35	35		-105	+35	+15	+0
週あたり	7.0	2.4	5.0	/	/	1.7	1.7	/	2.6	0.6	1.0	1.0		1.0	0.4	27.0	
第5学年 (小5)		+5	+25	+10	/	50	50	60	90	+35	35	35	15	-110	+35		+15
週あたり	5.1	2.7	5.0	3.0	/	1.4	1.4	1.7	2.6	1.0	1.0	1.0	0.4	1.0		27.4	
第6学年 (小6)		+5	+25	+10	/	50	50	55	90	+35	35	35	15	-110	+35		+15
週あたり	5.0	3.0	5.0	3.0	/	1.4	1.4	1.6	2.6	1.0	1.0	1.0	0.4	1.0		27.4	
	国語	社会	数学	理科		音楽	美術	技家	保健	英語	道徳	特別	選択	総合	宇治		総時数
第7学年 (中1)	140	105	+0 +35 105 140	105	/	45	45	70	90	+0 +35 105 140	35	35	30	-70	+35		+0
週あたり	4.0	3.0	3~4	3.0	/	1.3	1.3	2.0	2.6	3~4	1.0	1.0	0.9	1.0		28.0	
第8学年 (中2)	105	105	+0 +35 105 140	105	/	35	35	70	90	+0 +35 105 140	35	35	70	-85	+50		+0
週あたり	3.0	3.0	3~4	3.0	/	1.0	1.0	2.0	2.6	3~4	1.0	1.0	2.0	1.4		28.0	
第9学年 (中3)		+20	+35	+25	/	35	35	35	90	+35	35	35	70	-35	-130	+50	+0
週あたり	3.0	3.0	4.0	3.0	/	1.0	1.0	1.0	2.6	4.0	1.0	1.0	2.0	1.4		28.0	

授業時数の1単位時間は、小学校段階は45分、中学校段階は50分とする。

上記以外に、児童会・生徒会活動、学校行事、小学校第4～6学年では、クラブ活動に適切な授業時数を充てる。

参 考

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
標準授業時数によるコマ数	23	24	26	27	27	27	28	28	28
平成17年度の実施コマ数	23	24	26	27	28	28	29	29	29
上記試算の想定コマ数	24	25	26	27	28	28	29	29	29

国語科の小中一貫教育カリキュラムについて

1 国語科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。
思考力や想像力及び言語感覚を養う。
国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

2 これからの国語教育に求められること

言語の教育として、国語を適切に表現し正確に理解する能力の育成
社会生活に必要なコミュニケーション能力の育成
すべての教科を支える言語に関する学習としての位置付け
文化の基盤であり、社会生活を成立させ、発展させる手段としての位置付け

3 国語科教育の課題

指導内容、方法、評価等

指導内容が抽象的で、どのような力が付いたか見えにくいこと
指導の系統性がいまいである。繰り返し指導や小中一貫教育等から見直しが必要であること
言語活動の成立を目指す指導の中で、基礎的・基本的な事項の指導がおろそかにされていること
「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の評価方法を明確にすること
「読むこと」、特に論理的、説明的文章の指導方法を明確にすること
「読むこと」の指導と読書指導の関係を明確にすること

子どもの実態から見た課題

- 言語事項
- ・漢字の定着（読み、書きともに）
 - ・表記にかかる基礎・基本の定着
 - ・文の構成に対する知識理解（主・述、修飾・被修飾等）
 - ・文、文節、単語、品詞等の取扱いやローマ字指導の改善
- 話すこと、聞くこと
- ・全体としての指導時間の充実、特に、「独話 - 対話 - 話し合い」の指導の順序性を重視
 - ・「話すこと」「聞くこと」を一体化させた指導

書くこと

- ・書くことの指導時間の充実
- ・ねらいを明確にした指導改善
- ・文と文章の構成についての指導

読むこと

- ・細部の読み取りを重視する指導傾向の改善
- ・長文を読み通す力を育てる指導
- ・論理的・説明的文章など、多様な文章を読む指導

< 読書 >

- ・すべての子どもに読書習慣をつける指導

これからの国語教育では、自分の考えや意見などを伝えるために説得力のある話し方ができる力、論理的思考を展開していくために必要な読解力と目的や場所に応じて表現する力を育成することが求められる。

また、低学年から読書に親しみ、豊かな想像力、言語感覚を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を育てることも必要である。さらに、それらすべての言語活動を支える基盤として、語彙力、国語に対する知識等を全学年にわたって着実に身に付けさせていくことが重要である。

そのためには、小中9年間を見通した上で、発達段階ごとの重点目標を明確にしたカリキュラムを作成し、学習活動に即した評価規準を具体的に設定し、個に応じた指導と評価の一体化を図る。

4 課題を克服するための基本的な考え方

発達段階に応じ課題を焦点化させた指導を行う。

第1学年～第4学年は、読解力の基礎を培い、豊かな想像力・情感・言語感覚を身に付けさせることに重点を置く。

第5学年～第7学年は、言語事項の基礎基本を確実に身に付けさせるとともに、論理的な文章を読み、書く能力の基礎を培うことに重点を置く。

第8学年・第9学年は、国語の能力の充実期として、論理的思考力を一層伸ばし、多様な文章を読み、書く活動に習熟させることに重点を置く。

9年間を通して、語彙力・国語に関する知識の確実な定着と拡充を図る。

特に、言語事項に関する指導では、必要な事項は繰り返し学習できるようカリキュラムの改善を図る。漢字については、読みの指導を充実させるため、学年配当漢字に加えて常用漢字の配当を行う。

系統的で、日常的な読書指導を進めるため、学年ごとに「推薦図書」を設定し、各教科、図書館教育と連携を図った指導を行う。

5 小中一貫教育の視点から考える国語科のねらいと育てたい力

【言語事項】

全ての言語活動を支える基礎基本として、豊かな語彙力・漢字力と、読解・作文に活用できる言語事項の系統的な指導と確実な定着を図る。

【話すこと】

自分の考えや意見などを伝えるために論理的で、説得力のある話し方ができる。相手や場面・目的に応じて、話の組立、話し方を工夫し、わかりやすく話すことができる。

【聞くこと】

話の要旨をとらえ、聞いたことに対して自分なりの考えをもつことができる。話し手の立場を尊重し、場面に応じて最後まで集中して聞くことができる。

【書くこと】

短作文等で書く機会を増やし、身に付けた語彙、国語の知識を活かしてわかりやすい文章を書くことができる。
様々な情報を収集、活用して、自分の考えが明確に伝わる論理的な文章を書くことができる。

【読むこと】

文学的な文章において、様々な描写から想像力豊かに内容をとらえ、登場人物の心情を共感的にとらえることができる。
論理的・説明的文章において、叙述に即して正確に理解し、論理の展開に沿って内容を読み取ることができる。
古典（古文、漢文）の文章に親しむことができる。

【読書活動】

読書の楽しみを知り、学年にふさわしい文学作品等を進んで読むことができる。
必要な知識を得るため、また、教養を高めるために必要な書物を探し、活用することができる。
読書を通じて得た感動や知識等を話したり、文章に書いたりして他人に伝え共有する活動に意欲的に取り組むことができる。

6 発達のみとまりによる主なねらい・指導内容・指導形態

	第1学年～第4学年	第5学年～第7学年	第8学年・第9学年
ねらい	読解力の基盤をなすものとして、豊かな想像力・情感・言語感覚を身に付けさせる。	言語事項の基礎基本を確実に身に付けさせるとともに、論理的な文章を読み、書く能力の基礎を培う。	国語の能力の充実期として、論理的思考力を一層伸ばし、多様な文章を読み、書く活動に習熟させる。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」に重点をおき、読書量を増やすとともに、文学作品で[豊かな想像力と情感]、説明的文章で[叙述に即した正確な読解力]の育成を図る。 ・短作文等で書く機会を増やし、言語事項と関連させた指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・[文章全体の構成や展開の仕方に即した読解力]の育成を図るとともに、目的や主張を明確にした論理的な作文を書く学習を充実させる。 ・既習の言語事項について確実に定着できるよう繰り返し学習し、文法学習の初歩に移行していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報を収集、活用して、自分の考えが明確に伝わる論理的な文章を書いたり、資料を作成したりする。 ・文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くする。
指導形態	・担任による一斉指導	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による一斉指導 ・部分的に教科担任制を導入（文法指導等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任による一斉指導 ・課題別学習や選択授業で少人数指導を導入

7 授業時間数

学 年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
学習指導要領	272	280	235	235	180	175	140	105	105
小中一貫教育	272	280	245	245	180	175	140	105	105

8 指導事項および指導内容

(1) 「話すこと・聞くこと」について

	表現や認識	考えや意図	話 題	構成や論理	語句や文	話合い	言語活動例
第1・2学年		知らせたい事を選び事柄の順序を考えながら相手にわかるように話す。大事な事を落とさないようにしながら興味をもって聞く。 *正しく聞き取る。【追加】		*調べたことを分かりやすくまとめる。【追加】		身近な事柄について話題に沿って話し合う。	話 す 聞 く 話 合 い 自分が体験した事について話をする 読んだ本の中で興味をもったところなどを紹介する。 友達の話聞く。 *丁寧に聞く。【追加】 *興味をもって聞く。【追加】 尋ねたり応答したりする。
第3・4学年		伝えたいことを選び自分の考えがわかるように筋道を立てて相手や目的に応じて適切な言葉遣いで話す。 *具体例や理由の挙げ方を工夫して話す。【追加】		話の中心に気を付けて聞き自分の感想をまとめる。 *話の組み立てを工夫する。【追加】		互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合う。	話 す 聞 く 話 合 い 身近な話題についてスピーチをする。 身近な出来事や調べた事について説明したり報道する。 *要点など、メモの取り方を工夫して正しく聞き取る。【追加】 *話合いの進め方に従い自分の考えを筋道立てて話す。【追加】
第5学年		話の内容を話し手の意図を考えながら聞く。 *相手の意図を正しくとらえ内容が深まるように話す。【追加】		*自分の感想や考えが明確に伝わるように話の組み立てを工夫して話す。【追加】			話 す 聞 く 話 合 い *話し手の考えを明確にとらえながら聞く。【追加】 *討論の形式やルールを理解し、話し手の主張を正しくとらえながら聞く。【追加】
第6学年		考えた事や自分の意図がわかるように話の組み立てを工夫しながら目的や場に応じて適切な言葉遣いで話す。 *話し手の意図を明確にとらえながら聞く。【追加】		*事実と感想や意見を明確に区別し工夫して話す。【追加】		自分の立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う。	話 す 聞 く 話 合 い *話し手の意図を正確にとらえて内容を的確に聞く。【追加】 *討論の形式やルールを理解し、自分の立場や意図が明確に伝わるように組み立てを工夫して話す。【追加】
第7学年		自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話す。 話の内容を話し手の意図を考えながら聞き取る。	自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出す。	全体と部分、事実と意見に注意して話したり聞き取ったりする。		話合いの話題や方向をとらえて的確に話したりそれぞれの発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめる。	話 す 聞 く 話 合 い 説明や発表 対話や討論
第8・9学年	広い範囲から話題を求め話したり聞いたりして自分のものの考え方や見方を広めたり深めたりする。			話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見の関係に注意し話の論理的な構成や展開を考えて話したり聞き取ったりする。	話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して話したり聞き取ったりする。	話 す 聞 く 話 合 い 相手の立場や考えを尊重し話合いが目的に添って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして自分の考えを深める。	

(2) 「書くこと」について

	相手・目的(発想や認識)	事柄や意見	取材・選材	構成	記述	推敲	評価・批評	言語活動例	
第1・2学年	相手や目的を考えながら書く。	*伝えたいことからはっきりさせて書く。【追加】	書こうとする題材に必要な事柄を集める。	自分の考えが明確になるように簡単な組み立てを考える。	事柄の順序を考えながら語と語や文と文との続き方に注意して書く。	文章を読み返す習慣をつけるとともに間違いなどに注意する。		文字言語で伝え合う 情報収集・活用 総合的な言語活動	絵に言葉を入れる。 伝えたい事を簡単な手紙に書く。 身近な人などに尋ねた事をまとめる。 観察したことを文などに表す。
第3・4学年	相手や目的に応じて適切に書く。	*中心になることがらを明確にして自分の考えを書く。【追加】	書く必要のある事柄を選択したりする。	自分の考えが明確になるように段落相互の関係を考える。	書こうとする事の中心を明確にしなが段落と段落の続き方に注意して書く。	文章のよいところを見つけたり間違いなどを正したりする。		文字言語で伝え合う 情報収集・活用 総合的な言語活動	手紙を書く。 自分の疑問に思ったことなどについて調べてまとめる。 経験したことを記録文や学級新聞などに表す。
第5学年	目的や意図に応じて効果的に書く。	* 伝えたい事実やことから、課題、自分の考えや気持ちを明確にする。 【追加】	全体を見通して書く必要のあることがらを整理する。	自分の考えを明確に表現するため文章の組み立ての効果を考える。	事象と感想、意見などを区別するとともに目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。	表現の効果などについて確かめたり工夫したりする。	* 書いた文章を互いに読み合い、自分の表現の参考にする。 【追加】	文字言語で伝え合う	礼状や依頼文などの手紙を書く。
第6学年	目的や意図に応じて効果的に書く。 * 身近な生活や学習の中から課題を見つけ、材料を集めて書く。 【追加】	* 伝えたい事実やことから、課題、自分の考えや気持ちを明確にする。 【追加】	* 自分の考えや気持ちを表現するために必要な材料を選ぶ。 【追加】	* 自分の考えを明確に表現するため文章の組み立ての効果を考える。 【追加】	* 事象と感想、意見などを区別するとともに、根拠を示しながら自分の意見や考えを書く。 【追加】	* 書いた文章を読み返し表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて読みやすくわかりやすい文章にする。 【追加】	* 書いた文章を互いに読み合い、自分の表現の参考にする。 【追加】	情報収集・活用	自分の課題について調べてまとめた文章にすること。
第7学年	身近な生活や学習の中から課題を見つけ材料を集め、自分の考えをまとめる。	伝えたい事実やことから、課題、自分の考えや気持ちを明確にする。	自分の考えや気持ちを的確に表現するために適切な材料を選ぶ。	* 自分の考えを明確に表現するため文章の組み立ての効果を考える。 【追加】	* 事象と感想、意見などを区別するとともに、根拠を示しながら自分の意見や考えを書く。 【追加】	書いた文章を読み返し表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて読みやすくわかりやすい文章にする。	書いた文章を互いに読み合い題材のとらえ方や材料の集め方について自分の表現の参考にする。	総合的な言語活動	経験したことをまとめた記録や報告にする。
第8・9学年	広い範囲から課題を見つけ必要な材料を集め、自分のもの見方や考え方を深める。	伝えたい事実や事柄、自分の立場を明確にする。	* 自分の考えや気持ちを的確に表現するために広い範囲から適切な材料を選ぶ。 【追加】	文章の形態に応じて適切な構成を工夫する。	自分の意見が相手に伝わるように根拠を明らかにし論理の展開を工夫して書く。	書いた文章を読み返し文や文章を整えて説得力のある文章にする。	書いた文章を互いに読み合い論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などについて自分の表現に役立てる。	文字言語で伝え合う 情報収集・活用 総合的な言語活動	手紙や感想などの文章を書く。 説明や記録などの文章を書く。 報告や意見発表などのために簡潔でわかりやすい文章や資料を作成する。

(3) 「読むこと」について

	読書的な読むこと	叙述内容に即した読むこと	想像的な読むこと	事象と感想、意見にかかわる読むこと	目的的な読むこと	声に出しての読むこと	言語活動例
第1・2学年	易しい読み物に興味をもち、読むこと。	時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。			語や文としてのまとめりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。	昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと、絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと、自分の読みたい本を探して読むことなど。
第3・4学年	いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。	場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。	読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意しながら文章を読むこと。	書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。	読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど。
第5学年	自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。	目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。 *文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。【追加】	登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。	書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら、読むこと。	必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。	*音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して音読すること。【追加】	読書発表会を行うこと、自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むことなど。
第6学年		*文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。【追加】 *文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること。【追加】		*文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けること。【追加】	*情報を集めるために様々な種類の文章を読むこと。【追加】		

	ものの見方や考え方	語句の意味や用法	内容把握や要約	主題や要旨と意見	表現の仕方	構成や展開	情報の活用	声に出しての読むこと(言語事項)
第7学年	文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること。	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。	文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。	文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること。	*登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。【追加】	文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。	様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。	*音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して音読すること。【追加】
第8・9学年		文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること。		文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。	書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。	目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。	

(4) 「言語事項」について

	音 声	文 字	表 記	語 句 ・ 語 彙	文 法	言葉遣い・言語生活
第1・2学年	正しい姿勢や口形を意識して話す。はっきりした発音や発声で話す。	平仮名(五十音表)を読み、正しく書く。 片仮名を読み、正しく書く。 漢字の成り立ちや漢数字について理解し、使う。 漢字の筆順や画数について理解し、字形を意識して書く。 *児童漢検初9級(小学校2年まで)の学習漢字を理解し、文や文章の中で使えるようにする。【追加】	清音、濁音、半濁音を正しく表記する。 長音、拗音、促音、撥音を正しく表記する。 助詞「は」「へ」「を」について、文中で正しく表記する。 句読点やかぎ(「」)の使い方を理解し、文章の中で正しく使う。	上位概念、下位概念について理解し、それに基づく言葉集めをする。 言葉の類別や組みになる言葉について理解し、語彙を増やす。	文中での主語と述語の照応させた文を書く。	丁寧な言葉と普通の言葉の違いを理解して話す。 敬体で書かれた文章に慣れる。
第3・4学年	音量や速さ、声の高さを意識して音読する。	漢字の部首について理解する。 ローマ字の音節の仕組みを理解し、読み書きする。 漢字の音訓や送りがなについて理解する。 *漢字検定8級(小学校3年まで)7級(小学校4年まで)の学習漢字を理解し、文や文章の中で使えるようにする。【追加】	送りがなに気をつけて書く。 ローマ字を正しく表記をする。 句読点を適切に打ち、段落の初めや会話の部分などの改行をする。	「国語辞典」や「漢字辞典」の仕組みと使い方を理解する。 漢字の多義性を理解する。 同訓・同音の漢字を、意味に注意して正しく使い分ける。	文中での修飾語と被修飾語の関係が理解する。 文章構成上での主語・述語の役割を理解する。 文章構成上での段落の役割を理解する。 文と文をつなぐ接続語の働きを理解する。 指示語の働きを理解する。 動詞、形容詞、形容動詞を類別して理解し、活用形についても理解する。	言葉に代わる伝達機能について考える。
第5学年	*速度や間の取り方の基本を理解し、意識して話す。【追加】	漢字の由来に関心を持ち、四種類の成り立ちを理解する。 *漢字検定6級(小学校5年まで)の学習漢字を理解し、文章の中で正しく使えるようにする。【追加】	*句読点や改行など原稿用紙に書く上での基本事項を理解し、文章の中で適切に使う。【追加】	「国語辞典」の仕組みを理解し、効率的な使い方を身につける。 二字熟語の構成を理解し、意味を考える。	補助動詞の働きや意味を理解し、適切に使う。 *ことばのきまりや言葉の単位(文章、段落、文、文節、単語)について理解し、文章構成の上での文節の働き(文の成分など)を理解する。【7年より】	方言と共通語の特徴を理解する。 敬語の種類と働きや意味について理解し、適切に使う。
第6学年		平仮名・片仮名の由来に関心を持ち、日本語の表記について理解する。 *漢字検定5級(小学校6年まで)の学習漢字を理解し、文章の中で漢字が果たしている役割を知り、正しく使えるようにする。【追加】 和語・漢語・外来語の由来を理解するとともに、日本語についての理解を深める。	*句読点や記号、改行など原稿用紙に書く上での基本事項を確認するとともに、文章の中で正確に使う。【追加】	「漢字辞典」の仕組みを理解し、効率的な使い方を身につける。 ことわざや昔の言い方に関心を持ち、語彙の拡充を図る。 三字以上の熟語の構成を理解し、意味を考える。	*文法上の性質により単語を分類するとともに、それぞれの文法上の特徴を理解する。【8年より】 *体言(名詞、代名詞)を主とした自立語の働きについて理解する。【追加】 *主語、述語、修飾語と文の組み立てについて理解する。【7年より】	
第7学年		漢字の組み立てと部首について理解し、書体について理解する。 漢字の成り立ちと意味について理解する。 *漢字検定4級(小学校のすべての学習漢字+常用漢字300字程度)の漢字を理解し、文章の中で漢字が果たしている役割に対する理解を深め、適切に使えるようにする。【追加】	*句読点や記号、改行など原稿用紙に書く上での基本事項の確認をするとともに、文章の中ででの推敲が正しくできるようにする。【追加】	比喻表現など表現を豊かにするレトリックを理解し、表現活動に活用できる語彙の拡充を図る。 漢語・和語・外来語への理解を深め、語彙の拡充を図る。	*用言(動詞・形容詞・形容動詞)の活用と働きについて理解する。【8年より】 *文末表現には話し手の判断や物事の捉え方が表れていることを理解する。【6年より】 *文中における付属語(助詞・助動詞)の働きや用法について理解する。【8年より】	話し言葉と書き言葉の違いに関心を持ち、言語生活を豊かにしようとする。
第8・9学年		漢字の形に注目して、類形の異字や同音の異字、画数の多い字の読み方や意味を理解する。 *漢字検定3級(小学校のすべての学習漢字+常用漢字600字程度)準2級(小学校・中学校で学習する常用漢字1945字)の漢字を理解し、文章の中で適切に使えるようにする。【追加】	*原稿用紙に書く上で項を再確認し、日常の言語生活に生かす。【追加】	熟字訓など特別な読み方をする語についての理解を深める。 同音異字・同訓異字・同音異義語・字義による漢字の使い分けへの理解を深める。 対義語・類義語・多義語への理解を深め、語彙の拡充を図る。 慣用語や同音異義語など、辞書を活用することにより語彙の拡充を図る。	構文論に基づく口語文法への理解を深める。 *文語文法の基本事項(文末の助詞や係助詞など)を理解する。【追加】	敬語の3つの種類分けについての理解を深め、日常生活に活用する。 応答表現、文末表現、イントネーションの視点から適切な言葉の使い方について考え、より良いコミュニケーションを図ろうとする。

算数・数学科の小中一貫教育カリキュラムについて

1 算数・数学の目標

数量や図形などについての基礎的な知識と技能を身に付け、数学的な概念や原理・法則の理解を深める。

見通しをもち筋道を立てて考える能力を高め、数学的な表現や処理の仕方を身に付ける。

数学的な見方や考え方のよさが分かり、それらを進んで活用する態度を身に付ける。

実生活における様々な事象との関連を考慮しつつ、算数的活動・数学的活動の楽しさを知り、創造性の基礎を培う。

2 算数・数学における子どもの実態からの課題

基礎的な知識や、数学的な考え方を生かし、自分から工夫して問題解決することについては十分とはいえない。

系統性の高い算数・数学の学習では、学年進行に伴い比較的得意な子どもと苦手な子どもに分かれ、後者が次第に増加する傾向がある。

子どもは受け身の学習に慣れ、覚えることを得意とするが、時間をかけて自ら調べ判断し、自分なりの考えを持ったり、その考えを表現したりすることが苦手である。

基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れていない。

文章の題意や式の意味を読みとる力が弱い。

数量感覚や図形感覚が十分養われていない。

見方や考え方、筋道を立てて考える力、表現力に弱さがある。

学習意欲の持続、高揚が、学年進行に伴い、弱くなっている。

小学校第1学年～第3学年の実態からの課題

単純に計算することはできているが、計算の仕組みやその意味するところの理解は弱い。
文章題においては、その題意を十分に理解できず、数字をただあてはめるだけの立式を行っている。

除法において、計算による商は求められていても題意を理解せず、余りの適切な処理ができていない。

小学校第4学年・第5学年の実態からの課題

興味、関心を持たせたり、抽象的思考力の基礎となる作業的、体験的な活動など、算数的活動を通じた学習経験が不足している。

根拠となることを明らかにして、筋道を立てて考えを説明する力が弱い。

興味や関心に応じた学習や、習熟の程度に応じた学習形態が意欲的な学習となっていない。

繰り返し学習が不十分で習熟にいたっていない。

<p>4 観点中、「数学的な考え方」に課題が見られる。すぐに結果を求めたがり、順序よく考えていこうとする姿勢や態度が十分育っていない。</p> <p>新たな課題に直面したとき、既習内容を手がかりにして解決を図っていくといった考え方が不十分である。</p>	<p>4 観点中、「数学的な考え方」に課題が見られる。</p> <p>領域的には「数と計算」「量と測定」に課題が見られる。</p> <p>「$\times 10$, $\times 100$ や $\div 10$ などの十進数の表し方」「筆算」「あまりのある除法」「かさや長さの単位」に課題が見られる。</p>
<p>小学校第 6 学年・中学校第 1 学年の実態からの課題</p>	<p>中学校第 2 学年・第 3 学年の実態からの課題</p>
<p>数の概念の理解に弱さがある。(加法と減法、乗法と除法の関係の把握)</p> <p>分数の意味理解が弱い。(小数と分数の関係把握)</p> <p>四則混合計算の順序の理解と習熟が不十分である。</p> <p>等式の意味理解や計算で等式を正しく使って答えを出すことが十分できていない。(途中の計算を重要視する。)</p> <p>分数を使った割合の計算の習熟が不十分である。</p> <p>線対称と、点対称の系統的に理解できていない。</p> <p>作図の不器用さが目立つ。(コンパス、分度器、定規の使い方)</p> <p>作図が点の集合であること概念が弱い。</p> <p>比例のイメージは持ちやすいが、反比例のイメージが持ちにくい。</p> <p>未知数の文字と変数の文字の区別が明確にできていない。</p> <p>4 観点中、「数学的な考え方」に課題が見られる。</p> <p>「奇数・偶数の類別」「和・差の概数の見積もり」「小数の除法(余りの大きさ)」に課題が見られる。</p> <p>形式的計算処理には習熟してきているが、既習内容を用いて自ら考え解決する力が育っていない。</p> <p>式で表したり、式の意味を読み取ったりする力が弱い。</p>	<p>平方根の計算はできているが、概念が理解できていない。</p> <p>素因数分解を約数や倍数と関連付けて指導することが必要である。</p> <p>図形の証明などパターン化により理解は進んでいるが、少しパターンが違えば、筋道を立てて考え解決していく力が弱く、たちまちできなくなる。</p> <p>変化の割合の概念がつかめていない。計算方法の理解のみで定着していない。</p> <p>確率と順列・組み合わせの区別を明確にできていない。</p> <p>4 観点中、「数学的な考え方」に課題が見られる。</p> <p>図形領域に課題が見られる。</p> <p>数と式の領域では「文章から等式を作る」「機能、類推から性質を見いだす」、図形領域では、「垂直二等分線の利用」「扇形の中心角」、数量関係領域では、「表から比例関係を見いだす」「水槽に水を入れ、時間と水量の関係を考える」など問題文を正確に読み取ることができていない。</p>

3 課題を克服するための基本的な考え方

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

- ・低学年から基礎的な知識・技能の習得のための指導を確実にを行い、習熟のための繰り返し練習の時間を工夫し、日常的に取り組ませる。
- ・学習内容の連続性や系統性を考慮した指導を行う。
- ・指導計画に弾力性を持たせ、習得状況によっては、単元を超えてフィードバックしたり、繰り返し指導を行う。

文章の題意や式の意味を読みとる力を付ける。

- ・低学年から生活に根ざした文章問題に取り組みせ、中期、後期へと系統的に指導を展開する。
- ・算数・数学だけでなく、国語科を中心に日常的に「て、に、を、は、が、へ」などの文章の正確な読み取りを指導し、特に算数・数学では、式との関係についての理解を重視する。
- ・尋ねられている事柄は何かを明確にし、与えられた条件が何なのかをしっかりとらえらるようにする。
- ・具体物、半具体物等を用いたり、図示したりすることで、文章題をストーリーとしてイメージ化する工夫を行う。
- ・立式から答えを導く過程で、何を求めようとしているのかの意味理解ができるよう指導を行う。
- ・{ } や () 乗除と加減、四則計算の順序を意識した計算ができるよう、途中の式も残しながらていねいに扱いその習熟を図る。

経験や体験不足を補いながら数量感覚や図形感覚を養う。

- ・幼児期における経験・体験不足を補うため、初期における数量感覚を養う「数遊び」や「資料の統計的な処理」を多く取り入れる。
- ・社会や生活と算数・数学学習とのつながりの実感を大切にしながら発達段階に応じた作業や追体験などの算数・数学的活動を取り入れる。

見方や考え方、筋道を立てて考える力、表現力を身に付ける。

- ・基礎的・基本的な知識・理解を確実に習得させる。
- ・結果のみならず、結果に到るプロセスを重視する指導を早い段階から行う。
- ・課題解決に向けての着眼点を理解できるよう、生活体験に近い身近な課題を取り上げるようにする。
- ・後期においては、課題学習を積極的に取り入れる。
- ・自ら課題を設定し解決していくために、学習のまとめ新聞やレポートなどをもとにした評価を重視する。

小学校と中学校の指導方法の違いを内容的に明らかにし、そのスムーズな接続、連続性をもたせ、学習意欲を持続、高揚させる。

- ・算数から数学への学習内容の連続性及び子どもの実態や発達段階を十分に踏まえた指導方法や指導形態を取り入れる。
- ・数や量の概念形成期には作業や追体験をさせる算数的活動が効率的に行えるようなチームティーチングによる指導を取り入れる。抽象思考期には個に応じた指導をさらに進め少人数指導や専科的指導体制等も取り入れる。また、発展期には、興味関心に応じたり、習熟の程度に応じた少人数指導をも取り入れる。

4 小中一貫教育のコンセプトから考える算数・数学科のねらいと育てたい力

～楽しくわかり、できる算数、そしてよさがわかる算数・数学へ～

第1学年～第4学年 (小学校第1学年～第4学年)	第5学年～第7学年 (小学校第5学年～中学校第1学年)	第8学年～第9学年 (中学校第2学年～中学校第3学年)
<p>わかる・できる喜びを味わい、次への学習に対して意欲的に取り組む力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体物を用いた活動などの算数的活動を重視し、経験や追体験を通して、数・量・図形についての感覚を豊かなものにする。 ・ 数量や図形についての基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得を重視し、確実に覚え、確実に計算できる力を身に付ける。 ・ 計算の仕方の意味・理解を深めさせ、自らの力で新しい計算の仕方を考える力を身に付ける。 ・ 数量やその関係を式やグラフを用いて表したり考察する力を身に付ける。 ・ 問題文を具体物や絵・図等から、イメージ化を図り、題意を読み取り、その数量の関係を式で表し、順序よく解決する力を付ける。 ・ 数量の関係を具体物や絵・図・式などを使って調べたり、説明する力を付ける。 	<p>基礎・基本を確実に身に付け、それを問題解決に生かしていく力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業的な活動、体験的な活動をはじめとする算数的活動をさらに重視し、数・量・図形について基礎的な概念や原理の理解を深めたり、広げたりする。 ・ 既習事項をもとに、数量や図形についての基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得を行い、確実に覚え、確実に計算できる力を身に付ける。 ・ 数を小数、分数、さらには正負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深め、それぞれの四則計算が確実にできる力を身に付ける。 ・ 数量の関係を式で表したり、式を読んだり、その関係を調べたりする力を付け、関数の考え方を用い、数量の関係を表現し考察する基礎的な力を身に付ける。 ・ 問題文を略図や線分図などで整理し、解決の方法を見通して、より有用な方法で問題解決する力を付ける。 ・ 数量の関係を半具体物・線分図・式などを使って調べたり、説明する力を付ける。 ・ 自己課題に取り組むことを通して活動の楽しさや数理的な処理の良さに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。 	<p>ものごとを数学的にとらえ、抽象化や一般化し、論理的に判断する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めたり、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。 ・ 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深めたり、数の概念についての理解を一層深め、文字を用いた式など、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を伸ばす。 ・ 連立方程式や数の平方根について理解し、それを用いる能力を養い、数の概念についての理解を深める。 ・ 二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにしたり、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。 ・ 新たな課題に対して、既習事項を活用して自ら解決する力を伸ばす。 ・ 自分の考えを筋道立てて説明したり、わかりやすく表現したりする力を伸ばす。 ・ 自己課題に取り組むことを通して数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

5 発達のまとめりによる主なねらい・指導内容・指導形態

	第1学年～第4学年 (小学校第1学年～第4学年)	第5学年～第7学年 (小学校第5学年～中学校第1学年)	第8学年～第9学年 (中学校第2学年～中学校第3学年)
ね ら い	・繰り返しての思考や学習によって、数・量・図形感覚や基礎・基本の知識及び計算技能を確実に習得する。	・習得した基礎・基本の知識と計算技能を問題解決に活用し、数学的な考え方を深める。	・身の回りの事象を数学的にとらえ抽象化や一般化することによって、論理的判断力を習得する。
指 導 内 容	・算数的な活動を十分に取り入れ、繰り返して思考を深める時間を組み入れ数・量・図形感覚を育成する。 ・基礎・基本の計算技能の確実な習得のための時間の確保と指導の工夫を行う。 ・数量関係の素地づくりのための単元構成を発達段階に応じて設定する。	・既習事項をもとにした問題解決的な学習を重視し、考え方や表現の仕方を身に付けさせる。 ・具体的な思考から抽象的な思考へのスム－ズな移行をするための関数に関する思考力や図形の論理的思考力を高める単元配置を工夫する。 ・数学的な見方や考え方や処理の仕方を生み出す能力や態度を育成する。	・学習内容に発展的な課題を取り扱い、論理的・抽象的な思考力を高め、数学的に考察したり処理したりする態度を育成する。 ・子ども一人一人に自己課題を意識させるような機会を設定し、自己解決力を高めさせる。
指 導 形 態	・学級担任を主とした一斉及びティ－ム・ティ－チングを主体とした指導を行う。 第3学年から第4学年時には習熟の程度に応じた学習も取り入れる。	・教科担任制も取り入れながら、一斉指導及び少人数・習熟の程度に応じた学習を充実する。	・個に応じた課題選択学習や習熟の程度に応じた学習を取り入れるなど、教科担任を中心とした協力指導を充実する。

6 年間授業時数

学 年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
学習指導要領	114	155	150	150	150	150	105	105	105
小中一貫教育	114	155	175	175	175	175	105 ～ 140	105 ～ 140	140

7 算数・数学科の学習内容

追加項目

学年	数と計算	量と測定	図形	数量関係	時数
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 集合数の概念 100までの数 10までの順序数 数0の導入 数直線 数の増減、加減 和が一定になる2数 	<ul style="list-style-type: none"> 長さ測定 	<ul style="list-style-type: none"> 物の形 面の形 前後・上下・左右 何番目 積み木の面 積み木遊び 	<ul style="list-style-type: none"> 和が一定になる2数 	標準 114
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 1000までの数 位取り記数法 九九 加法と減法の関係 加法の交換・結合法則 ()・乗法の交換法則 整理、表・絵グラフ 積が同じになる2数 	<ul style="list-style-type: none"> 時刻 長さの測定、単位 mm cm m 	<ul style="list-style-type: none"> 直線 形を作る 三角形 四角形 	<ul style="list-style-type: none"> 積が同じになる2数 	標準 155
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 万の単位の数 10倍、10で割る 暗算・除法、乗法 乗法の結合法則 乗法と除法の関係 分配法則 	<ul style="list-style-type: none"> 重さ、重さの単位、加減 時刻、時間・分・秒・日 長さの単位、道のり かさ、かさの単位 かさの加減 	<ul style="list-style-type: none"> 辺、頂点、直角、面 方眼紙上での作図 長方形 正方形 直角三角形 箱づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 乗数の増減と積の変化、何倍 分類、表の作成、棒グラフ 	標準 150 + 25 175
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 億、兆の単位の数 加減乗・概数・小数 同分母分数 電卓を使った加減 除法、商と余りの関係 計算の優先順位 四則混合算 	<ul style="list-style-type: none"> 広さ、面積の単位 長方形、正方形の面積 	<ul style="list-style-type: none"> 角、回転角、中心、直径、半径 角度、直角、分度器、三角定規 二等辺三角形、正三角形、円 球、球の切り口 	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる2つの量 折れ線グラフ 収集 表の考察 	標準 150 + 25 175
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 偶数、奇数・小数点の位置 割合を表す小数 分数と小数・等しい分数 和差の見積もり 計算の工夫・同分母分数の加減・小数の乗除 交換・結合・分配法則 文字を使った式 文字と式(現行中1) 	<ul style="list-style-type: none"> 円周と直径 円周率 三角形、四角形、平行四辺形の面積 	<ul style="list-style-type: none"> 対角線、垂直、平行 三角形の内角の和 四角形の内角の和 台形、平行四辺形、ひし形 線対称・点対称(現行中1) 合同(現行中1) 正多角形(現行中1) 	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係を表に表す 数量関係を式に表す 円周の公式 割合 % 帯グラフ 円グラフ 	標準 150 + 25 175
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 倍数と約数 素因数分解の基礎(現行中3) 約分、通分 割合、時間を表す分数 異分母分数の加減 積、商の見積もり 分数の乗除・積が1になる分数・比の式 	<ul style="list-style-type: none"> 速さ 速さの単位 分数で表された時間 立体の表面積(現行中1) 体積 体積の単位 直方体、立方体の体積 角錐、円錐の体積(現行中1) 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直、平行 見取り図、展開図 平面、局面 底面、側面 歩測による概測 直方体、立方体 角柱、円柱 角錐、円錐(現行中1) 	<ul style="list-style-type: none"> 比例の表、式 比例のグラフ、比例定数 反比例の意味、グラフ(現行中1) 平均 単位量あたり 人口密度 	標準 150 + 25 175
第7学年	<ul style="list-style-type: none"> 正の数・負の数 負の数の概念・加減乗除 累乗・交換・結合法則 四則混合の順序 文字と式 文字の導入・同類項 ()の分配法則・式の値 方程式 未知数を表す文字 等式とその変形 小数、分数を含む方程式 		<ul style="list-style-type: none"> 平面図形 折って重なる図形・直線 多角形・線対称、点対称 合同・角の二等分線 垂線・垂直二等分線 空間図形 多面体・角柱、角錐、正多面体 見取り図と展開図 直線や面の位置関係 扇形の弧の長さ・面積 立体の表面積、体積 	<ul style="list-style-type: none"> 比例と反比例 変数を表す文字 以上、以下 比例を表す式 比例のグラフ 反比例の意味 反比例のグラフ 	標準 105 + 0~ 35 105 ~ 140
第8学年	<ul style="list-style-type: none"> 式の計算 式を加減乗除 連立方程式 等式の加減 		<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質と合同 直線と角・三角形の角 多角形の角 三角形の合同条件 証明 三角形と四角形 二等辺三角形 直角三角形 円周角の定理 平行四辺形 長方形、ひし形、正方形 等積変形 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数 変化の割合 グラフ 場合の数と確率 並べ方、組み合わせ方 確率 	標準 105 + 0~ 35 105 ~ 140
第9学年	<ul style="list-style-type: none"> 平方根 平方根の概念 根号を含む式の計算 式の計算 乗法公式 素因数分解 因数分解 2次方程式 因数分解を使った解き方 平方根を使った解き方 		<ul style="list-style-type: none"> 図形の相似 拡大、縮小・相似比・三角形の相似条件・比の性質・三角形と平行線・中点連結定理 三平方の定理 直角三角形の3辺の長さ・長方形の対角線・三角形の高さ 2点間の距離・錐体の高さ・錐体の表面積、体積・直方体の対角線 	<ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = ax^2$ 2乗に比例する関数 放物線と直線 	標準 105 + 35 140

英語教育の小中一貫教育カリキュラムについて

1 英語教育の目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

2 英語教育の課題

指導内容について

- ・現在、小学校では「総合的な学習の時間」に英語活動を行っているが、小学校学習指導要領には、具体的な指導内容や言語材料が示されていない。小学校では、何をどの程度指導するのかについての研究が必要である。
- ・宇治市では、既に英語活動・英語教育研究員が小学校英語活動指導計画・指導案を既に作成しているが、各学校での取組には、違いが生じている状況がある。
- ・現在の宇治市小学校英語活動指導計画における指導内容は、主として「話すこと」「聞くこと」を中心とした言語活動である。小中一貫教育では、「書くこと」の指導も含め、中学校の指導内容(時数、言語材料など)も再編成する必要がある。

指導方法について

- ・小学校の英語活動は、AETの指導に頼っている傾向が見られ、計画的、系統的な指導ができていないとの指摘がある。
- ・AETの活用を含め、小学校での指導体制をどのように確立するのか。
- ・中学校では、高校入試の現状から学年が上がるにつれ、コミュニケーション活動に重点を置きにくくなる傾向がある。本来の目標の実践的コミュニケーション能力の基礎は培うためには、どのような工夫ができるのか。

子どもの実態について

- ・小学校段階での英語活動においては興味・関心・意欲が高いが、中学1年生後半より「英語嫌い」が増える傾向が見られる。
- ・目標達成のためには、「指導時間数の不足」が大きな課題である。中学校現行の週3時間の教育課程では、「書くこと」において指導時間が不足し、学習内容を十分に定着できていないことがある。
- ・各小学校における英語活動への取組状況の違いや、小学生の時期からの英語塾や通信教育の普及により、中学入学時点で子どもの英語の力に差が生じている。

3 課題を克服するための基本的な考え方

義務教育9年間を通して英語学習への関心・意欲を高めていくことができるよう、AETの効果的な活用や英語を使う喜びを実感させる体験的な活動を充実する。

義務教育9年間の系統性のある指導計画を作成し、小学校段階から「書くこと」の指導を取り入れる。

第5学年～第7学年の指導においては、個々の子どもの実態に応じた指導に対応するために、少人数指導を積極的に取り入れる。

中学校においても、全ての子どもが学習内容の定着を図れるよう外国語(英語)の時間を充実する。

小学校教員の「英語活動の指導」の研修を行い、指導力向上を図る。

4 小中一貫教育の視点から考える英語教育のねらいと育てたい力

ねらい

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

育てたい力(資質・能力)

<第1学年・第2学年>

英語のもつリズムを体感し、英語の音の特徴に慣れ親しむ。(原則として「聞くこと」「話すこと」のみ)

<第3学年・第4学年>

英語の簡単な言い回しや、コミュニケーションに親しむ。(原則として「聞くこと」「話すこと」のみ)

<第5学年～第7学年>

英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。(「書くこと」も含む)

- ・話し手の意向などを理解する。
- ・場面に応じて、自分の思いや考えなどを簡単な英語で表現する。
- ・学習指導要領に示す内容に基づく実践的コミュニケーション能力の基礎を身に付ける。

<第8学年・第9学年>

英語によるコミュニケーション能力を活用する。

- ・学習指導要領に示す内容に基づく実践的コミュニケーション能力の基礎を身に付ける。
- ・言語や文化を理解する力を身に付ける。

5 発達のまとまりによる主なねらい・指導内容・指導形態

	第1学年～第4学年	第5学年～第7学年	第8学年・第9学年
ね ら い	<p>英語によるコミュニケーションに親しむ。</p> <p>(第1学年～第2学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語のもつリズムを体感し、英語音の特徴に慣れ親しむ。 <p>(第3学年～第4学年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の簡単な言い回しやコミュニケーションに親しむ。 	<p>英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し手の意向などを理解する。 場面に応じて、自分の思いや考えなどを簡単な英語で表現する。 学習指導要領に示す内容に基づく実践的コミュニケーション能力の基礎を身に付ける。 	<p>英語によるコミュニケーション能力を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示す内容に基づく実践的コミュニケーション能力の基礎を身に付ける。 言語や文化を理解する力を身に付ける。
指 導 内 容	<p>(第1学年～第2学年)</p> <p>簡単な歌やゲームを通して英語に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ Hello, my name is ~. Nice to meet you. 好きな物(動物) I like ~. 数(1～10まで) Seven Steps Ten Little Monkeys ほしいもの (おかし・飲み物) I want ~. 学校の中の場所 教室の中の身近な物 	<ol style="list-style-type: none"> アルファベット 自己紹介と初対面の挨拶 (be動詞) はじめまして 調子はどう お礼とその返事 ものや人の紹介 果物、野菜、色、形、文房具、ほしいもの、乗り物 私の家族、友だち 一般動詞(疑問文、否定文) スポーツを楽しもう あやまる言い方 自分のことを話そう 好きな動物、教科 友だちに尋ねよう 疑問詞、形容詞、 様子を表す言葉 複数形、数を尋ねる疑問文 数字 	<p>(第8学年)</p> <ol style="list-style-type: none"> be動詞の過去形 過去進行形(疑問文) 未来形、SVO, SVO C の文型、通関手続き 許可、依頼の表現 不定詞(副詞的、名詞的用法) 「～しなくてはならない」 「～する必要がない」 「～してはいけない」の表現、 未来形、道案内 接続詞if, that, when, becauseを含む文、 誘い・提案の文 「～がある」の文(疑問文) 動名詞を含んだ文 原級、比較級、最上級を含んだ 文、電話の会話

<p>(第3学年～第4学年)</p> <p>ローマ字</p> <p>英語の歌やゲーム・ごっこ遊びを通して、コミュニケーションの仕方に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ(気持ちを表す) How are you? I'm ~. ・好きな物(果物・スポーツ) I like ~. Do you like ~? ・数に関するもの 1～20までの言い方 ・お店屋さんごっこ ・レストランごっこ How much? 〇dollars. ・時刻 What time is it? It's 〇. ・位置・地域 Where's ~? It's ~. 	<p>7. 命令文、誘いの文 Simon Says 動きを表す言葉 禁止の命令文 Let's ~</p> <p>8. 三単現(疑問文、否定文)</p> <p>9. 道案内 宇治市を観光しよう</p> <p>10. 時刻の尋ね方</p> <p>11. 1日の生活を話す 私の生活</p> <p>12. 場所、持ち主を尋ねる疑問詞 宇治市を観光しよう</p> <p>13. 代名詞(目的格、所有格)</p> <p>14. 現在進行形</p> <p>15. 電話の会話</p> <p>16. 「～できる」の文 自分のことを話そう</p> <p>17. 「いつ」の疑問文</p> <p>18. 許可や依頼をする言い方 買い物ごっこ レストランごっこ</p> <p>19. 月の言い方 誕生日</p> <p>20. 一般動詞の過去形 (疑問文、否定文)</p>	<p>(第9学年)</p> <p>1. 受け身形の文 使役動詞を含んだ文</p> <p>2. 現在完了(継続)の文 「want 人 不定詞」 「tell 人 不定詞」を含んだ文</p> <p>3. 現在完了(経験、完了)の文 不定詞(副詞的用法)の文 人に食べ物等を勧める表現</p> <p>4. 不定詞を含んだ文、道案内</p> <p>5. 現在分詞、過去分詞を含む文 間接疑問文 買い物で使う表現</p> <p>6. 接触節、関係代名詞の文 病院で使う表現</p>
<p>指導形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級担任とAETのTT ・学級担任と英語専科教員のTT ・社会人講師の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任とAETのTT ・学級担任と英語専科教員のTT ・英語専科教員のみの指導 ・英語専科教員のTT ・英語専科教員とAETのTT ・社会人講師の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語専科教員のみの指導 ・英語専科教員のTT ・英語専科教員とAETのTT ・社会人講師の支援

6 年間授業時数

学 年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
学習指導要領	0	0	0	0	0	0	105	105	105
小中一貫教育	10	10	20	20	35	35	105 ～ 140	105 ～ 140	140

7 指導計画（言語材料の配列）

	第1学年（10時間）	第2学年（10時間）
	<p>挨拶ごっこを楽しもう</p> <p>Hello, ~. Goodbye.(See you.) Hello Song</p>	<p>挨拶ごっこを楽しもう</p> <p>Hello, my name is ~. Nice to meet you.(,too.) Good Morning Good Evening Good Night</p>
	<p>動物と遊ぼう</p> <p>動物の英語 (Animal Dice Gameなど) Animal's Hello</p>	<p>好きな動物を紹介しよう</p> <p>動物の英語 I like ~. Goin to the Zoo</p>
	<p>数と遊ぼう(1)</p> <p>one ~ ten Seven Steps</p>	<p>数と遊ぼう(2)</p> <p>one ~ ten Ten Little Monkeys</p>
	<p>スナックタイム</p> <p>~,please. Here you are. Thank you. Yes,Please.Thank you.</p>	<p>ほしいもの(おかし・飲み物)</p> <p>果物,おかし,飲み物の英語 I want ~. Let's Go Shopping</p>
	<p>学校探検を楽しもう</p> <p>学校の中の場所の英語 go,up,down. Up and Down</p>	<p>英語でいえるかな?(教室)</p> <p>教室の中の英語 What's this ? It's Hokey Pokey</p>

月年	第3学年 (20時間)	第4学年 (20時間)
5	<p>自己紹介をしよう</p> <p>Hello, I'm....</p> <p>Nice to meet you.</p>	<p>自己紹介をしよう</p> <p>Hello, I'm....</p> <p>Nice to meet you.</p>
6	<p>挨拶をしよう</p> <p>How are you ?</p> <p>I'm</p>	<p>挨拶をしよう</p> <p>How are you ?</p> <p>I'm</p>
7	<p>好きなもの(果物)</p> <p>I like</p>	<p>好きなもの(スポーツ)</p> <p>Do you like ... ?</p>
9	<p>数で遊ぼう</p> <p>1 ~ 20</p>	<p>今、何時?</p> <p>What time is it ?</p> <p>It's</p>
10	<p>ハロウィンを楽しもう</p> <p>Trick or treat !</p>	<p>ハロウィンを楽しもう</p> <p>Trick or treat !</p>
11	<p>お店屋さんごっこ</p> <p>How much ?</p>	<p>レストランごっこ</p> <p>How much ?</p>
12	<p>クリスマスを楽しもう</p> <p>What's this ?</p> <p>It's</p>	<p>クリスマスを楽しもう</p> <p>What's this ?</p> <p>It's</p>
1	<p>お正月の遊びをしよう(福笑いゲーム)</p> <p>eye,ear,mouth,nose</p> <p>left,right,up,down</p>	<p>お正月の遊びをしよう(カルタ遊び)</p> <p>Where's ... ?</p> <p>It's</p>
2	<p>体を動かそう</p> <p>head,shoulder,knee,toe</p>	<p>体を動かそう</p> <p>clap,knock,stamp,jump</p>
3	<p>英語で遊ぼう</p> <p>今まで学習した表現を使ってゲームをする</p>	<p>英語で遊ぼう</p> <p>今まで学習した表現を使ってゲームをする</p>

月年	第5学年 (35時間)	第6学年 (35時間)
4	<p>自己紹介 I'm ...</p> <p>初対面の挨拶 Nice to meet you.</p>	<p>自己紹介 I like... I have...</p> <p>天気、天候 How's the weather today ?</p>
5	<p>アルファベット</p> <p>曜日、月の言い方 What day is today ? What's the date is it today ?</p>	<p>数字 (21~100) How many... ?</p> <p>数字 (電話番号) My phone number is...</p>
6	<p>色、形 What color... ?</p> <p>文房具 Lend me...</p> <p>果物、野菜 I like apples.</p>	<p>ほしいもの I want... What do you want ... ?</p> <p>乗り物 Let's go to ... by ...</p>
7	<p>数字 (1~20)</p>	<p>私の趣味 My hobby is...</p> <p>友だちにたずねよう What ... do you like ?</p>
9	<p>スポーツを楽しもう I play...</p>	<p>学校を設計しよう Where is the teachers' room ?</p> <p>宇治市を観光しよう Where is Byodoin ?</p>
10	<p>私の家族 Who is ... ? He is...</p>	<p>世界の国 国名</p> <p>世界の国 World restaurants 世界の料理</p>
11	<p>好きな動物、教科 I don't like...</p>	<p>様子を表すことば いろいろな形容詞</p> <p>アルファベット</p>
12	<p>動きを表すことば Touch your nose.</p>	<p>世界の国 世界のいろいろな行事</p>
1	<p>買い物ごっこ How much ... ?</p>	<p>世界の国 入国審査</p>
2	<p>レストランごっこ, please. Here you are.</p>	<p>私の夢 I want to be ...</p>
3	<p>時刻のたずね方 What time... ?</p>	<p>自分のことを話そう 自己表現活動</p>

月年	第7学年(105～140時間)	第8学年(105～140時間)	第9学年(140時間)
4	<p>英語の挨拶</p> <p>Hi. How are you ? Bye. Good morning.</p> <p>Classroom English</p> <p>身の回りの単語</p>	<p>be動詞の過去形を含んだ肯定文、疑問文、否定文</p> <p>This cap was 2,000 yen lastweek. Was this cap 2,000 yen lastweek? Yes, it was. No, it wasn't.</p> <p>過去進行形の文</p> <p>I was reading a book then.</p> <p>look + 形容詞の文</p> <p>You look happy.</p>	<p>受身形(現在形、過去形)の肯定文、疑問文</p> <p>Braille is used by many people. Was braille invented by a Frenchman ? Yes, it was. No, it wasn't.</p> <p>使役動詞を含んだ文</p> <p>The news mad me sad.</p>
5	<p>アルファベットの読み書き</p> <p>自己紹介</p> <p>I am</p>	<p>あいづちの打ち方</p> <p>Did you? How about you ? Really ?</p> <p>未来形</p> <p>I am going to visit Nara tomorrow. Are you going to visit Nara tomorrow ? Yes, I am. No, I'm not.</p> <p>S V O C の文型</p> <p>Show me your passport, please. We call it the Great Buddha.</p>	<p>話の切り出し方</p> <p>Are you interested in ... ?</p> <p>現在完了形(継続の用法)の肯定文、疑問文</p> <p>I have lived in Japan for five years. Bob has lived in Japan for five years. Have you had the sweater for two years ? How long have you had the sweater ? For two years.</p>
6	<p>相手の紹介や確認</p> <p>You are ... Are you... ? Are you from... ? Yes, I am. No, I'm not.</p> <p>お礼とその返事の表現</p> <p>Excuse me. Thank you. You're welcome.</p> <p>近くにある物の説明や確認</p> <p>This is ... Is this... ? Yes, it is. No, it's not.</p> <p>離れた所の物の説明、確認</p> <p>That is ... Is that ... ? Yes, it is. No, it's not. It's ...</p> <p>人の紹介</p> <p>He is ... She is...</p> <p>自分の年齢の言い方</p> <p>I'm twelve.</p>	<p>許可を求める文、依頼の文</p> <p>May I use your pen ? Could you read this letter for me ?</p> <p>不定詞の副詞的用法</p> <p>I use a computer to play games.</p> <p>不定詞の名詞的用法</p> <p>I want to learn about your country.</p> <p>自分の夢を語る</p> <p>I want to be a teacher.</p>	<p>Many people have been in the park since this morning.</p> <p>want 人to不定詞を含んだ文</p> <p>Do you want her to call you back ?</p> <p>tell 人to不定詞を含んだ文</p> <p>Could you tell her to call me back ?</p> <p>感想文を書く</p> <p>The purpose of the trip was ...</p> <p>現在完了形(経験)の文</p> <p>Have you ever been to America? Yes, I have. No, I have not. I have never been there.</p> <p>現在完了(完了)の文</p> <p>I have just finished my work. Have you finished your work yet?</p> <p>不定詞の形容詞的用法</p> <p>I have a lot of work to do.</p> <p>不定詞の原因を表す副詞的用法</p> <p>I am glad to meet you.</p>

7

簡単な足し算、引き算

Twelve plus eight is twenty.
Ten minus four is six.

電話番号の言い方、聞き取り

My phone number is ...

自分の好きな事、趣味を話す

I like music. I have a car.
I play the piano.

相手の趣味や学校生活を聞く

Do you play the piano ?
Yes, I do. No, I don't.

否定の表現

I do not have a car.

謝罪やそれに対する返事

I'm sorry. That's all right.
Pardon.

電車の中での対話

Is this Mita station ?

何であるかを尋ねる表現

What is this ? It is a bird.

形容詞を使った表現

English is interesting.
English is not easy.

好きな教科について応答

What's your favorite subject?
Music.

毎日の朝食についての応答

What do you have for
breakfast ?

丁寧な表現

..., please.

名詞の複数形

One hamburger.
Two hamburgers.

数を尋ねる表現

How many books do
you have ?
I have ten books.

物語の読み取り

(場面の变化、登場人物の
心情の変化を読み取る)

ことばのつなぎ方

oh, uh, let's see...

食べものを勧める時の表現と応答

Would you like some more ?
Yes, please. No, thank you.

<p>9</p>	<p>「～しよう。」と誘う表現 Let's go.</p> <p>命令文、依頼の表現 Use this phonecard.</p> <p>曜日に関わる応答 What day is it today ? It's Friday.</p> <p>時間割に関わる応答 We have English on Mondays. We don't have English on Tuesday.</p> <p>一般動詞3人称単数現在形を使った肯定文、疑問文、否定文 Becky likes Japan. Does she write haiku ? Yes, she does. No, she doesn't. Becky does not use English.</p>	<p>夏休みの思い出を話す I went to Kyoto in August.</p> <p>義務や必要を表す文 I have to speak English now. I do not have to speak English now. You must help your mother.</p> <p>禁止の文 You must not eat too much.</p> <p>未来形 I will show you her picture tomorrow.</p> <p>道案内 Could you tell me the way to the post office ?</p>	<p>歴史や平和に関わる読み物の理解詩の作成</p> <p>留守番電話と伝言 「疑問詞 + 不定詞」を含む文 I know how to use a fan. I will show you how to use a fan.</p>
<p>10</p>	<p>道案内 Which bus goes to City Hall ? Take Bus No. 3</p> <p>時刻に関わる応答 What time is it ? It is eight..</p>	<p>if 節の文 If you can come, please call me. Please call me if you can come.</p> <p>that節の文 I think that we need a parking area.</p> <p>when節の文 People complained when a bike fell on Miki.</p> <p>because節の文 I am against the plan because we need our parks.</p> <p>誘ったり提案する文 Would you like to come with me ?</p> <p>コメントの仕方 Lucky you. That 's nice. That's too bad.</p>	<p>It is + 形容詞 + for to...の文 It is difficult for me to understand Japanese.</p> <p>道案内 Change trains at the third stop.</p> <p>現在分詞、過去分詞による後置修飾 This is a game made in Japan. The boy wearing glasses is Akira.</p> <p>間接疑問文 I do not know what you mean.</p>

<p>11</p> <p>人について尋ねる応答</p> <p>Who is Ben ? He is a friend.</p> <p>1日の生活</p> <p>I get up at seven.</p> <p>場所を尋ねる疑問文と応答</p> <p>Where is my book ? It is on the desk.</p>	<p>英語劇を演じる</p> <p>人をほめる表現</p> <p>You did a good job. That's a good ... I really like...</p> <p>天気予報の英語</p> <p>There is (are)構文の肯定文、疑問文</p> <p>There is a present under the tree. There are some presents under the tree. Is there a card on the table ? Yes, there is. No, there is not.</p>	<p>人に何かを申し出る表現</p> <p>Shall I wrap it up for you ?</p> <p>接触節</p> <p>This is a book I bought in America.</p> <p>関係代名詞whoを使った文</p> <p>Carson is the scientist who wrote <i>Silent Spring</i>.</p>
<p>12</p> <p>持ち主を尋ねる疑問文と応答</p> <p>Whose bag is this ? It's mine.</p> <p>人称代名詞を含んだ文</p> <p>Do you know him ?</p> <p>現在進行形の肯定文、疑問文、否定文</p> <p>Ken is playing baseball now . Are they playing baseball ? What are they doing ?</p>	<p>動名詞を含んだ文</p> <p>I finished writing this poem. Singing Christmas songs is fun.</p> <p>グリーティングカードの作成</p> <p>Hope we can meet soon.</p> <p>自分の街の紹介</p> <p>I live in... It's in the west of...</p>	<p>関係代名詞that(which)を使った文</p> <p>This is a movie that (which) makes us happy.</p> <p>関係代名詞that(目的格)を使った文</p> <p>This is a book that she wrote last year.</p> <p>体の不調の説明</p> <p>What's wrong ? I have a headache.</p>
<p>1</p> <p>否定命令文とbe動詞で始まる命令文</p> <p>Don't drive fast. Be careful.</p> <p>電話での会話</p> <p>Hello, Dan ? This is Becky.</p> <p>自分ができること、できないことを説明する文</p> <p>I can swim fast. I cannot swim fast.</p> <p>あることができるか、できないかを尋ねる文</p> <p>Can you swim fast ? Yes, I can. No, I can't.</p>	<p>比較級、最上級を含んだ文</p> <p>Godzilla is stronger than King Kong. Godzilla is the strongest of all monsters. This movie is more interesting than that one. This movie is the most interesting this year. Yumi is my best friend. They fly as high as a bird.</p>	<p>物語を読み、場面の变化や登場人物の心情を読み取る</p> <p>3年間の総復習</p>

<p>2</p>	<p>時期について尋ねる文</p> <p>When can you see it ?</p> <p>許可、依頼、それに対する応答の表現</p> <p>Can I open the window ?</p> <p>Can you help me ?</p> <p>日付に関わる応答</p> <p>What's the date today ?</p> <p>January 10.</p> <p>誕生日の言い方</p> <p>When's your birthday ?</p> <p>規則動詞の過去形を含んだ文</p> <p>I walked in the park yesterday.</p> <p>不規則動詞の過去形を含む文</p> <p>I went to school yesterday.</p>	<p>同意、反対、賛成の表現</p> <p>I agree. I think so, too.</p> <p>I disagree. I don't think so.</p> <p>比較表現の復習</p> <p>スピーチ原稿作成</p>	<p>3年間の総復習</p>
<p>3</p>	<p>過去形の疑問文、否定文</p> <p>Did you study English yesterday ?</p> <p>Yes, I did.</p> <p>No, I didn't.</p> <p>I did not study English.</p>	<p>環境問題に関わる英文の内容理解</p> <p>電話の会話</p> <p>May I speak to ... ?</p>	<p>3年間の総復習</p>

「宇治学」の小中一貫教育カリキュラムについて

- 宇治で学ぶ・宇治を学ぶ・宇治のために学ぶ -

1 宇治学について

「総合的な学習の時間」を宇治市の地域素材や地域活動をもとに学習する「宇治学」の時間として再編成し、人間としての在り方・生き方について考え、学び方やものの考え方、個性を生かし高める能力、市民としての社会性が身に付けられる時間とする。

宇治市で育ち、宇治市で学ぶ子どもたちが、保護者や地域の方々と連携した学習を行い、体験を通して地域から学び、地域に発信していく活動も取り入れながら、地域に親しみをもち、よりよい地域を考え、自己の生き方についても考える契機とする。

具体的な内容については、学校、地域や子どもの実態を考慮しつつ、これまで各校で取り組んできた「総合的な学習の時間」の成果も生かせるよう、学校において適切に定めるものとする。

2 宇治学の目標

【地域に対する理解・関心・愛着】

地域の伝統文化や産業などに対する理解と関心を高め、地域に対する誇りと愛着心を育て、ふるさと宇治を大切にしようとする心を育む。

【地域社会の一員としての自覚】

市民との関わり、市民からの学び、市民への働きかけや異年齢の子ども同士の交流を通して、好ましい人間関係や地域社会の一員としての自覚を深め、自分の役割や行動の仕方について考え、よりよい宇治市を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

【勤労観・職業観】

ふるさと宇治を基盤とした様々な体験的な活動を通して、自己の個性を理解し、自分の将来に向けて夢をもち、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる。また、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせ、努力していこうとする心情を育む。

【思考力・判断力・表現力・問題解決能力】

学び方やものの考え方を身に付け、地域での課題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

3 年間授業時数

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第7学年	第8学年	第9学年
時数	生活科	生活科	35	35	35	35	35	50	50

4 発達のまとめりごとの主なねらい・指導内容

	第1学年・第2学年	第3学年・第4学年	第5学年～第7学年	第8学年・第9学年
学 習 テ ー マ	宇治で学ぶ・宇治を学ぶ・宇治のために学ぶ			
	宇治を知り、宇治に親しむ		宇治を学び、宇治を体験する	宇治の学習を深め、宇治からはばたく
地域に対する理解・ 関心・愛着	生活科	宇治のよさを知り、宇治に親しむ。(地理的環境、自然環境、地域の産業)	宇治の歴史や文化に親しむ。宇治の特色や課題を分析し、よりよい宇治の姿を考える。	宇治を郷土として愛し、郷土の発展のために努力しようとする。
地域社会の一員としての自覚	自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。	自分及び他者のことに関心を持ち、相互に理解しようとする。	地域の方々と積極的に関わり、地域社会の一員として自覚をもって行動しようとする。	地域社会の一員としての自分の役割や行動について考え、実践しようとする。
勤労観・職業観		地域社会や身のまわりの仕事に関心を持ち、自分の夢や目標に向かって努力する。	自分の長所や短所に気付き、人との関わりの中で自分らしさを発揮しようとする。	勤労の尊さや意義を理解し、望ましい勤労観・職業観を身に付ける。
思考力・判断力・表現力・問題解決能力		学び方やものの考え方を身に付け、目標に向かって努力する態度を形成する。	地域での課題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を形成する。	自分の将来を考え、進路を切り拓く能力を身に付ける。
学 習 活 動 の 例		<ul style="list-style-type: none"> ・宇治の自然に親しむ ・宇治の人々と触れ合う ・宇治に伝わる遊びを体験する ・自分の住む地域(校区、お店)を探検する ・地域の行事に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶の研究(茶摘み、製茶、茶香服) ・校区の地名調べ ・電車、バスでの市内散策 ・市内探検ウオーク ・宇治市を紹介しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治市の伝統文化(宇治田楽など)体験 ・宇治市のCMづくり ・地域行事(左義長など)への参画 ・福祉施設等でのボランティア体験活動 ・宇治の歴史と文化の研究 ・地域でのボランティア体験、美化活動